

Published since 1971

日工販NEWS

November
2022

工作機械業界への知見を広げ、日工販会員の絆を深める広報誌

普現寺(大分県)



日本工作機械販売協会
JAPAN MACHINE TOOL DISTRIBUTORS ASSOCIATION



小型マシニングセンタシリーズ

Saving Center

エネルギー、コスト、スペースを「Saving」



SH350



横型#30 マシニング



SV130



立形#15 マシニング

繋ぐ技術を、世界へ

 エンシュウ株式会社

営業・開発本部 第1営業部

〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅 788

TEL:053-588-4771 FAX:053-588-2469

営業・開発本部 第2営業部

〒432-8522 静岡県浜松市南区高塚町 4888

TEL:053-447-2445 FAX:053-447-1469

東京支店

TEL:03-5479-1671 FAX:03-5479-1677

大阪支店

TEL:06-6338-2471 FAX:06-6338-2192

<http://www.enshu.co.jp>





普現寺（大分県）
撮影：池邊 孝治（日工販事務局）

SE 合格者に
ご回覧をお願いします。

CONTENTS

- 2 巻頭言**
「将来の工作機械販売」
日本工作機械販売協会 理事 岡田 浩之
- 4 特集 日本工作機械販売協会 創立 50 周年記念式典開催**
- 16 特集 IMTS 訪問記**
日本工作機械販売協会 専務理事 中島 和彦
- 18 分かりやすい話題の技術**
「CNC/ 精密旋盤『DL シリーズ テクノターン』
『ガイドンス機能』の発展の歴史をご紹介します」
大日金属工業株式会社 宇野 聡
- 22 私の読書評**
「峠（上・中・下）」
株式会社 NaITO 薄井 芳博
- 23 リレー随筆**
株式会社山善 外山 和樹
- 24 工作機械と私**
株式会社カネコ・コーポレーション 重川 雅行
- 25 私の好きなお店**
「韓国家庭料理屋 とうがらし」 佐藤商事株式会社 片田 光彦
- 26 私の健康法**
株式会社 TAKISAWA 大西 孝明
- 28 海外だより**
「再始動へ向けて」
MMC Metal de México, S.A. de C.V. 笹本 浩介
- 30 SE 教育**
2022 年度 SE 教育「SE 資格取得講座」実施報告
日工販 SE 合格者 第 239 回発表
- 34 お知らせ**
「日工販ニュース表紙写真の公募について」
- 35 会社生活に於ける私の初〇〇**
「初めての専用機受注」 山下機械株式会社 伊藤 雅文
- 36 自社紹介**
株式会社マルカ 佐藤 壮彦
- 38 統計資料**
「工作機械・FA 流通動態調査 1」「工作機械・FA 流通動態調査 2」
「マシニングセンタ動向 & NC 施盤動向」
「工作機械業種別受注額（2022 年 9 月）」
- 42 事務局だより**
「自社紹介」コーナーの新設について
- 43 議事録**
「第 299 回定例理事会議事録」「第 300 回定例理事会議事録」
「第 128 回調査広報委員会議事録」「製品研修会」
「西部地区 正・賛助会員情報交換会」

巻頭言

Introduction

将来の工作機械販売

コロナ禍となり2年半が過ぎようとしています。この間、仕事も私生活もいろいろな変化がありました。初めころは、出張禁止、顧客訪問不可、出勤制限、テレワークにフレックスタイムなど、そして飲み会が無くなり夜の時間に大きな隙間が出来ました。最初の頃は、何をやればいいのか解らず自宅で飲んでばかりいました。しかしながら体に悪く、だらだらした生活に成りそうで心改め真剣に何をするか考えました。あまり費用が掛からなくて長続きするものということで読書に決めました。元々小説が好きで、東野圭吾、池井戸潤、奥田英朗、内田康夫、重松清などを好んで読んでいます。コロナ禍では、昔読んでいた単行本を押し入れから段ボールごと引っ張り出し何十年かぶりに夜な夜な読み返す日々を送っております。

その中に、ショートショート & SF ミステリー小説で有名な星新一の本が数冊ありました。発行年を見ると1970年～1980年代の本が多く奇想天外な内容が多くあります。星新一の小説は当時では夢みたいなアイテムが沢山ありました。

例えば、

- ・ TV で相手と会話出来るシステム（現在の Web 面談）
- ・ 持ち運びできる電話（携帯電話→スマートフォン）
- ・ ガソリンを使用しない電力自動車（EV カー）
- ・ 自動運転自動車（ハンズオフ機能レベル2～2,5→日産 Pro Pilot2.0など）
- ・ 大量の資料を圧縮して持ち運べる本（ノート PC）
- ・ 人の代わりに働く人形（ロボット）
- ・ シャベリかけると翻訳できる箱（自動翻訳機）

などなど・・・40年以上前の時代では夢物語でした。当時は、一瞬でも現実逃避できる楽しい時間でもありました。

星新一は1926年生まれの大先輩です。東京大学～日本 SF 作家クラブと戦後の物の無い時代ではありますが、発想は斬新な SF センスの持ち主です。正に今の時代を予想していたかの様です。

日本経済新聞主催の「星新一賞」も今年で第10回目となります。SFが中心で、グランプリは星新一賞ですが、日本を代表する製造業の東京エレクトロン賞やアマダ賞などもあり、こんなものがあったら良いね！これ商品化できるのでは？・・・のような夢膨らむアイテムも続々エントリーされています。正にそれらを創るのは工作機械です。近未来では、空飛ぶ自動車、瞬間翻訳機、宇宙旅行、海底都市、宇宙都市～壊れたら自分で診断し原因を明確にする工作機械などなど、星新一の世界があと数年～十数年後には現実化しているかもしれません。それぞれの得意分野を担当する工作機械も、もっと面白い加工が出来る様になっていくと思います。

昨今は、人材不足や働き方改革による協働ロボット支援システムや開発スピードを更に高速化する金属3Dプリンターなど、時代を重ねる毎に昔では考えられないシステムが実現化しています。また、温暖化や環境破壊、戦争及び新型コロナウイルスなどで生活スタイルも変化しています。そういう時代の変化に工作機械が対応し活躍しています。

工作機械を販売する我々も、情報収集やデータ構築にAI活用やクラウド戦略を考慮していかなければならない時期に入っています。但し、工作機械販売はやはり営業マンが“人に接して、相手に信頼され、認めてもらい販売する”スタイルは変わりないと信じます。更に高度な打合せも不可欠です。未来に向かい工作機械販売の継承を行いましょう。後輩や、新人、及び就職活動している学生さん達に、夢を実現できる工作機械の話をして工作機械業界を盛り上げていきましょう。

今年のJIMTOF2022は、4年ぶりにリアルで行われます。将来に向かい今は現役の踏ん張りどころです。明るい未来のためにまだまだがんばるぞー！



日工販 理事 岡田 浩之
(三井物産マシンテック株式会社 理事)

特集

日本工作機械販売協会

創立50周年記念式典開催

日時：2022年10月21日（金） 13：00～17：30

場所：ホテルグランドアーク半蔵門

〔式典〕3階「華の間」 13：00～14：00

〔講演会〕3階「華の間」 14：15～15：45

〔祝賀会〕4階「富士の間」 16：00～17：30

日本工作機械販売協会（以下「日工販」）は、1970年（昭和45年）10月28日、「会員の健全な経営を基盤として、工作機械の流通販売及び利用の改善向上を通じて、業界全体の総合的な発展と関連産業の振興を図るとともに、国民経済の繁栄に寄与すること」を目的として、日本国内における工作機械の流通販売、製造及びリース事業を営む企業体により設立されました。

以来50余年に亘り、工作機械販売を主体とした業界発展に寄与してまいりました。これを記念して、2020年10月28日に記念式典を開催する予定で準備を進めていましたが、当年年初に始まった新型コロナウイルス感染症が瞬く間にパンデミックとなり、感染拡大防止の観点から延期の判断を強いられました。

その後も感染拡大は、衰退どころか一層の拡大を見せ、2020年の延期に続き翌2021年の開催も延期せざるを得ない状況となりましたが、国内第7波が沈静化に向かう傾向を見て2022年10月21日、ようやく開催の運びとなりました。

記念式典では、会長挨拶の後、これまで日工販の発展にご尽力いただき、これまでにお亡くなりになられた方々への慰霊黙祷を出席者全員で執り行いました。



物故者慰霊黙祷



引き続き、ご来駕いただきました経産省製造産業局産業機械課 課長の安田篤様、一般社団法人日本工作機械工業会 会長の稲葉善治様のご祝辞を頂戴し、経産省局長表彰として表彰状が対象者に授与されました。これまでの協会へのご貢献に深く感謝いたします。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。



司会進行：
中島専務理事

《局長表彰受賞者の方々は以下のとおり》 ※氏名五十音順

- 赤澤機械株式会社 代表取締役社長 赤澤 正道 様
- 株式会社不二 代表取締役会長 池浦 捷行 様
- 新東工業株式会社 取締役会長 上田 良樹 様
- 宮脇機械プラント株式会社 取締役会長 宮脇 隆一郎 様
- 山下機械株式会社 代表取締役会長 山下 隆藏 様



向かって左から

- 赤澤機械株式会社 営業部 部長 中村 徹 様(赤澤 正道 様 代理受領者)
- 宮脇機械プラント株式会社 取締役会長 宮脇 隆一郎 様
- 新東工業株式会社 取締役会長 上田 良樹 様
- 経産省製造産業局産業機械課 課長 安田 篤 様
- (一社)日本工作機械工業会 会長 稲葉 善治 様
- 株式会社不二 代表取締役会長 池浦 捷行 様
- 山下機械株式会社 代表取締役会長 山下 隆藏 様

また、本来であれば通常総会時に行う予定としていた日工販会長表彰について、前述のとおり感染拡大防止の観点から延期していた関係で、今回の記念式典に合わせて表彰することといたしました。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

《会長表彰受賞者の方々は以下のとおり》 ※氏名五十音順

- 元京華産業株式会社 役員 岩切 修 様
- 元日工販 専務理事 宇佐美 浩 様
- 三立興産株式会社 代表取締役会長 加藤 斉 様
- 株式会社井高 取締役社長 高田 研至 様
- 株式会社東陽 代表取締役社長 羽賀 象二郎 様



向かって左から

- 京華産業株式会社 取締役 藤元 浩幸 様(岩切 修 様 代理受領者)
- 元日工販 専務理事 宇佐美 浩 様
- 日工販 会長 高田 研至(株式会社井高 取締役社長)
- 株式会社東陽 代表取締役会長 羽賀 昭雄 様(羽賀 象二郎 様 代理受領者)
- 三立興産株式会社 代表取締役会長 加藤 斉 様

受賞を受けた10名を代表して、株式会社不二 代表取締役会長の池浦捷行様が、謝辞と共に今後の日工販発展に向けた決意を述べられました。

今回の式典を記念して、株式会社ナカニシ自動車産業リサーチから代表アナリストの中西孝樹様による記念講演が催されました。

大きな技術革新の節目にきている自動車業界の今後の動向は、工作機械業界にとっては死活問題につながる大きな課題となっていますが、まさに旬の題材となる「次世代自動車の未来図と自動車産業の激変の構図」と題して、工作機械産業の生き残り戦略について講演が行われました。

講演の概略は、講師の方のご承認を待った上で、次号（2023年1月発行の日工販 NEWS）に掲載予定としています。

講演会終了後、階を移動して祝賀会を開催しました。総勢74社134名（ご来賓含む）のご臨席をいただき、感染拡大を意識して着座形式とした厳粛なムードの中にも、表彰された方々をお祝いする華やかな雰囲気を保ちながら、終了予定時間を若干過ぎた18時前、日工販 池浦副会長の中締めの挨拶により散会となりました。



記念講演 中西孝樹様

記念式典

会長挨拶 日本工作機械販売協会 会長 高田 研至（株式会社井高 取締役社長）

本日はご多忙の中、日本工作機械販売協会 50周年記念式典にご参加くださりまして、誠にありがとうございます。

日頃は日本工作機械販売協会の発展のため、当協会の活動に積極的にご参加いただきまして重ねて御礼申し上げます。またご来賓といたしまして経済産業省製造産業局産業機械課 課長の安田様、課長補佐・川内様、係長・蝶野様、（一社）日本工作機械工業会より会長の稲葉様、常務理事・長濱様、国際部長・田中様のご列席を賜りまして、誠に厚く御礼申し上げる次第です。



さて、日工販は会員の健全なる経営を基盤とし、工作機械の流通販売および利用の改善向上を通して、業界全体の相互的な発展と関連産業の振興を図るとともに、国民経済の繁栄に寄与することを目的として1970年10月28日、第一回の設立総会が会員101社により大阪にて開催されました。以来、今日まで日本のものづくり産業、国民経済に貢献できたのではないかと感じています。

ここで、設立当時の1970年を振り返ってみますと、当時は長きに亘り続いたいざなぎ景気の成熟期に達した時期でございまして、GDPは15%成長と高度成長を遂げ、自動車産業も520万台とモータリゼーションの真只中でした。

日工会殿においては生産額3,100億円を超えていましたが、内NC機243億円とNC機はまだ出始めた頃であり、輸出においても240億円とまだまだ国内需要中心の市場環境でありました。

こうした時代背景の中で、工作機械流通業界の中心である販売業者が集まって全国的な組織を実現し、今日まで工作機械販売促進に向けて走り出したことは意義の深いものであり、諸先輩方の先見の姿勢に敬意を表したいと思っています。

10年目の1980年は第二次オイルショックの時期でありまして、日工会殿の数字は生産額6,800億円、内NC機3,400億円、比率としては49.8%と跳ね上がり、輸出額は2,700億円とNC機の普及により世界で確固たる地位を築かれております。

25年目の1995年はバブル崩壊から立ち直り、自動車産業は輸出を伸ばし外需依存型の産業に変わってきました。日工会殿の数字は生産額7,000億円、内NC機の比率も82.3%となり輸出額においては4,780億円と、1993年には輸出額が国内販売額を逆転し、それ以降自動車産業とともに外需を中心として伸ばされてきております。

30年目の2000年は受注額9,750億円、生産額8,100億円、輸出額6,200億円、40年目の2010年は受注額9,780億円、生産額8,100億円、輸出額6,080億円でした。そして日工販が50年目を迎える2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により深刻な景気後退をもたらす中、受注額9,000億円、生産額7,200億円、輸出額5,300億円となりました。

この50年において、日工会殿は1982年より2008年まで28年間連続世界一位に輝き、2018年においては受注額1兆8,000億円を超える素晴らしい業績を残されております。

さて、この日工会殿の数値とともに50年を振り返らせていただきました。

現在、52年目を迎える日工販ですが、世界の情勢は新型コロナウイルスがいつ終焉するかわからない、地政学的な問題、ドル高による為替の問題など混沌とした社会情勢であり、そして環境問題など我々を取り巻く環境は課題が山積しております。

このような状況の中、日工販の目的である業界全体の総合的な発展を目指す、また将来に向けて、若手社員が自信と誇りを持てる魅力ある業界となるためにも、日工販の会員でよかったと思われる日工販、そし

てメーカー様からもユーザー様からも必要とされる商社であり続けることが大切であると感じております。

皆様には改めて社員一人一人の教育、会社全体のレベルアップをお願いするとともに、日工販といったしましても積極的に協力して参ります。1991年にスタートしたSE教育は31年が経過し、延べで1万人以上の受講者を迎え、今後も改善を重ねながら時代に合ったプログラムの充実を図って参ります。是非、今まで以上の積極的なご受講をお願いいたします。

最後になりますが、日本工作機械販売協会、そして長期に亘り実施されているSE教育を立ち上げた諸先輩方に改めて敬意を表したいと存じます。

それでは各企業のますますのご発展と、本日ご参加いただきました皆様のご健勝を祈念いたしまして挨拶とさせていただきますと思います。

本日は誠にありがとうございます。

来賓挨拶 経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長 安田 篤 様

皆様こんにちは。ただいまご紹介に与りました経済産業省産業機械課の安田と申します。

本日は日本工作機械販売協会の50周年記念式典にお招きいただきまして誠にありがとうございます。50周年記念式典の開催にあたりまして一言お祝いのご挨拶をさせていただきますと思います。



まず、日工販殿が創立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶びを申し上げます。御協会は1970年の設立以来、先ほどご挨拶にもございましたけれどもセールスエンジニア人材育成、そして国内外関係団体との交流を通じまして、我が国製造業の基盤であります工作機械の流通販売、あるいは利用の改善に大きく貢献されてこられたと考えております。

この50年を振り返りますといろいろなことがございました。かつてはオイルショックやバブル崩壊、近年では東日本大震災や新型コロナウイルスの感染症拡大といった経済社会の大きな環境変化がございました。こうした中でも皆さんは時代や環境の激しい変化にも柔軟かつ機動的に対応されまして、工作機械ユーザーに対する工作機械の供給を支えることで我が国全体の競争力強化にも大きく貢献されてきたということに敬意を表したいと思います。また昨今工作機械の流通販売を取り巻く環境はさらに一段と不確実性を増しておりまして、また目まぐるしく変化をしていると思います。例えばリモートワークなどの日常生活におけるデジタル化が幅広く浸透していく中で、我が国製造業におきましても、いわゆるニューノーマルへの対応や、さらなる生産性の向上、そして新たな付加価値の創出に向けてデジタル技術を活用したデジタルトランスフォーメーションをより一層進めていくことが必要になっております。それに加えましてグリーン社会の対応ということで、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速していくことも求められております。

御協会、そして会員企業の皆様には今後のビジネスチャンスにもこうしたデジタルあるいはグリーンという機会をつなげて頂きまして、デジタル技術を活用した工場の自動化、あるいは遠隔監視の導入、そして省エネ型の製品の展開、こういったことについて工作機械メーカーあるいはユーザーと連携を深めていただきながら強力に進めていただくことを期待させていただいております。

経済産業省といたしましても引き続き、皆様の現場の声を丁寧にお伺いしながらデジタル化あるいはグリーン化を実現するための環境整備にもしっかり取り組みまして、皆様の取組みと連携しながら様々なことを前に進めていきたいというふうに考えております。

結びとなりますけれども、引き続き御協会の積極的な取り組みを通じまして、工作機械の流通販売、延いては我が国製造業の一層の発展が遂げられるように、心より祈念をさせていただきます。

そして御協会の更なるご発展、そして会員企業の皆様のさらなるご発展、そして本日はご列席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

来賓挨拶 一般社団法人日本工作機械工業会 会長 稲葉 善治 様

皆さん、こんにちは。日本工作機械工業会の会長を務めさせていただいております稲葉でございます。

工作機械メーカーを代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

この度、日本工作機械販売協会が創立50周年を迎えられ、本日記念式典がこのように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

さて、工作機械の販売と製造は車の両輪でございます。お互いに協力し合い、今日の発展に向けてともに進んできた50年ということ言うまでもございません。

顧みますと、日本工作機械販売協会が設立された1970年以降、我が国工作機械業界は大きな飛躍を遂げました。設立当時の1970年の工作機械受注額は、先ほど高田会長からもご紹介のあったようにたかだか2,251億円でございます。またNC化率も10%以下ということで、現在のレベルから見ると大変小さな規模でまたかつ汎用機を主体としておりました。しかしながら1972年以降になると日本の工作機械のNC化率は急速に上がり、NC化の遅れていたヨーロッパに対し、日本の工作機械の近代化が一気に進むことになりました。

この結果、国内だけでなく欧州市場に進出を果たした日本の工作機械業界は1982年に世界第一位の工作機械生産国となりました。そして現在に至るまで日本の工作機械は世界市場で確固たる地位を占めております。

現在、日本の工作機械は量では中国に次いで二番目でございますが、質では依然としてドイツとトップクラスの地位を維持しております。こうして日本の工作機械の発展はメーカーとユーザーをつなぐ販売のプロフェッショナルである日本工作機械販売協会のご活躍なくしてはなしえなかったと感謝しております。そして長年に亘る皆様のご尽力に敬意を表するとともに、絶大なるご協力にこの場をお借りして心より御礼を申し上げます。

さて、現在工作機械業界は3つの課題に直面しております。

一つはスマートファクトリーを実現するデジタル化でございます。二つ目は世界からのニーズであるグリーン化でございます。そして三つ目は昨今のパンデミックで露呈しましたように強靱なサプライチェーンを維持するためのレジリエンスでございます。

11月8日から開催されるJIMTOF2022では、この3つの中で特にデジタル化、グリーン化に関する課題の解決に資する工作機械の技術と製品を提案いたします。

日本工作機械販売協会の皆様方におかれましては、多数のユーザー様を会場にご案内下さいますようよろしくお願い申し上げます。

将来に向かってさらに業界を発展させていくために、工作機械の販売と製造を担う我々が手に手を取り合って、その時々で直面する問題に率先して取り組んでまいりたいと存じます。

創立50周年の節目に際しまして、日本工作機械販売協会およびその会員企業の皆様方のご繁栄ご発展を心からご祈念申し上げます私のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



表彰者謝辞 株式会社不二 代表取締役会長 池浦 捷行 様

経済産業省 課長・安田 篤様、本日はありがとうございます。

今回5名が表彰対象者ということで登壇させていただいておりますが、長年日工販にご指導いただきながら共に歩んできた50年、記念すべき日にこういった荣誉ある賞をいただいたこと大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

日工販への入会でございますが、本来は他界した父親が進めておりましたが、身体が思わしくなかったため設立の当初から代理で私が出るようになって、以来50年経ってしまいました。

先ほどから話が出ていますが、この流通業界におきましても大変いろんなことが起きました。同業他社も大変な艱難辛苦を経験されて今日を迎えております。そういった意味では、これから自分たちに出来ることのあるのではないかと、先輩から引継ぎながらもやってきたのがSE教育でございます。日工販のSE教育は歴史がございまして、これからの若者が我々の業界に馴染んでいただく、これから活躍していただく場として、やはり先人の後ろ姿を見せるだけではなく、具体的にいろんな話を機会を通じてやっていくということが大切であろうと感じています。

この基幹産業でもある工作機械業界というのは、製販ともにこれからの国の基幹産業として重要な位置づけを持ち続けるだろうという確信を持っています。と言いますのも、技術革新が大変進んでおり、我々もこの業界で頑張っていくためには様々なことを勉強していかねばなりません。11月8日から本当に待ちに待ったリアルなJIMTOFが開催されます。今、私どものユーザー様も含め、業界こぞって待ちかねております。是非、大勢の動員を図ってこの産業界がますます発展してもらいたいと考えております。

皆これから歴史を刻んでいくわけですから、今後、経産省、日工会それぞれ是非ともご指導ご鞭撻のほど賜りますようお願い申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。



受付の様子



お迎えの様子

祝賀会

会長挨拶 日本工作機械販売協会 会長 高田 研至（株式会社井高 取締役社長）

会長を仰せつかっております、株式会社井高の高田でございます。一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

日頃は日工販の活動に多大なるご協力、また本日はお忙しい中ご参加を頂きまして、誠にありがとうございます。

まずもって、先ほど中西先生から非常に勉強になる、考えさせられるご講演をいただきました。皆さんからはこの後質問攻めになるのではないかと考えているのですが、これからの我々の経営の参考になる内容ではなかったかと思っています。

先ほど50周年の記念式典が行われました。滞りなく終了いたしました。その席上、経済産業省産業製造局長表彰、そして工作機械販売協会会長表彰をそれぞれ5名の方が受賞されました。改めて、皆様大きな拍手でお祝いしていただければと存じます。

日本工作機械販売協会は1970年に101社の会社が参加され、大阪で第一回の会合が開催されました。当協会の目的は、業界全体の総合的な発展と関連団体の親交をはかることを目的としています。

現在の社会情勢は新型コロナウイルス、地政学的な問題、ドル高にみられる為替の問題などで本当に混沌とした状況の中、先ほどのお話にもございましたように環境問題、様々な面でカーボンニュートラルが叫ばれ、我々としてはこれからも問題が山積している中で経営をしていくわけでございます。

そのような状況にあって、ここで少し我々とも関連している自動車業界のお話に触れてみたいと思います。

1970年代というのはNC機でモノが作られ、1980年代に入るとNCタッピングセンターやトランスファーマシン、そして1990年代にパレット型NC機が一軸NC機となり、2010年になってようやくマシニングセンタが登場して並べて使われるという状況になりました。そして現在は5軸NC機が検討されている状況にあります。また工程分割から工程集約ということに加工のラインの考え方も変わりましたし、またある会社ではラインの月当り生産台数が3万6千台、それが1万8千台、そして9千台と、以前の大量生産から変種変量を意識したラインへと大きく変わってきています。

このように自動車ラインも大きく変わっていますが、同時に工作機械業界も大きく変容しています。工作機械だけではなく、ロボットも含めた周辺装置、測定器、DX、AIなど新たな知識が多く求められる状況



祝賀会の様子①

になっています。よって、メーカー様からもユーザー様からも必要とされる商社になるためには、一人一人の社員教育と会社のレベルアップを是非お願いしたいと考えています。

日工販では1991年にスタートしたSE教育が既に31年を迎え、1万名以上の方々に受講していただいています。我々日工販といたしましてもこれから新しい要素をいろいろと取り込んで、会員の皆様にこのSE教育を今まで以上にご活用いただき、今後の糧にさせていただければと考えています。

さて、日工会殿の数値は今年1兆7,500億円と過去2番目の数値となっており、そしてロボット工業会殿は昨年1兆円でしたが、今年も1兆円近い数値を目指されているという状況の中、先ほどのお話にも出ておりましたJIMTOFが来月開催されます。我々も多くのお客様をお連れして、まさしくこれはお客様がどれだけご来場されるか、どれだけ興味をもっていただけるかにかかっていますが、JIMTOFの成功に繋げるべく、皆様にも集客にご協力をお願いしたいと思っております。

振り返って、我々の強みとは何かと考えてみると、工作機械の販売は勿論ですが、コーディネーターとしての役目、これをしっかりとやっていくことであり、これが商社にできる一番のことではないかと思っています。皆様一丸となって取組んでまいりたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、各企業の益々のご発展と本日ご参加の皆様のご健勝を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。本日は楽しんでくださればと存じます。ありがとうございました。



祝賀会の様子②



祝賀会の様子③

乾杯 三栄商事株式会社 取締役会長 後藤 正憲 様

ただ今ご紹介に与りました後藤でございます。

まずもって日工販の50周年を迎えられたことをお祝い申し上げたいと存じます。

また本日表彰を受けられた方々にも改めて祝意を表したいと思えます。

さて、先ほど高田会長からも話がございまして、50周年の心積もりで参ったつもりでしたが実は52年だということがわかりまして、私が社会人になってちょうど50年ですから感慨深いものがございました。

これまでのご挨拶でも様々なお話を聞いてまいりましたが、社会人になって以降この“工作機械村”と言いますか、この業界に身を置いてまいりました。その中で、今ちょうど為替のことが随分と問題になっていますので思い出したのですが、私は1970年にアメリカに行きまして1972年の10月に戻ってきました。戻って以降この業界にいますが、アメリカに行った時には360円/米\$でした。その後のニクソンショックもあって、帰国した折は302円/米\$だったと思います。それからますます円高が続きまして、わが社も輸出しているものですから、長くこの円高に苦しめられました。

1977年当時の通貨危機の時期に、ちょうど現在150円/米\$と言われている為替レートだったかと覚えています。最近115円/米\$から150円/米\$になったと大騒ぎしているようですが、そういうショックがこの50年の中でありました。ニクソンショックの後には、皆さんご存知と思いますが第一次オイルショック、これも極端なことが起こりました。当時、1バーレル2ドルだったと思いますが、一夜にして12ドルまで跳ね上がりました。これも世の中が大混乱しました。これらに対し、この50年、業界として様々なことをやってまいりました。ただ、50年間生き抜いてきたということはまぎれもなく事実です。先ほど、講演会の講師から“100周年”というお話が出ましたが、本当に100周年を迎えられるのではなからうかと私は感じています。不二の池浦会長も「工作機械は基幹産業なので、これからも続く」というお話が先ほどございましたが、本当にその通りだろうと思っています。

工作機械業界は泥臭いとか油臭いといった世界ですが、とにかく50年なんだかんだ言いながらも生き抜いて参りました。それで50周年を迎えることができたのですから、次の100周年に向かって我々がさらに発展していくこと、またご参集の皆様方がそれまでご健勝に過ごされ、若い方たちへの継承も行いながらますます発展していくことを祈念して杯を上げたいと存じます。ご唱和をお願いします。日工販100周年を目指して・・・乾杯！



乾杯！

中締め 日本工作機械販売協会 副会長 池浦 捷行（株式会社不二 代表取締役会長）

宴たけなわ・・・という言葉のとおりでございますが、ご参集の皆様のおかげをもちまして大変和やかな50周年の記念式典および祝賀会にさせていただきました。ありがとうございます。

今回の中締めは本来であれば西部の副会長の予定でございましたが、所用により欠席ということになりましたので私からご挨拶申し上げます。

今日のご多用のところご臨席を賜りまして本当にありがとうございました。当式典は2年経過しての開催でございます、こうして皆様にお集まりいただけたことが何よりありがたいことだと感じています。

先程来、高田会長からも日工販のSE教育の話が出ていましたが、本日は日工会の稲葉会長もお見えになっていますので、一言御礼を申し上げたいことがございます。これは日本工作機械工業会の話なんですが「当協会のSE教育の特徴として、際立って素晴らしいのは卓越された講師陣にあります。日本工作機械工業会の重鎮が長年培った経験を基にその内容と共に、人となりをご教授いただける貴重な体験となることをご推奨申し上げます。受講される社員の皆様にとりましても、貴重な経験になると思います。」というくんだりです。

これは、実は日工販NEWSの2021年11月号に掲載した内容でございます。ちなみにSE講座の受講者、先程来1万名を超えたというお話が出ておりましたが、正確なところでは、基礎講座受講者数2,921名、



祝賀会の様子④



祝賀会の様子⑤

SE 資格取得講座受講者数4,510名、SE 資格更新研修受講者数1,916名、永世 SE893名、これまでの累計数が10,240名でございます。認定取得者数は3,733名となっています。これからこの業界を担っていく、各社の若手に営業マンをしっかり教育して時代を担っていただける、そういう者に育てていかなければならない使命があるということでございます。当協会の会員は、現在正会員80社、賛助会員76社と発展飛躍を遂げてまいりました。まだまだお伝えしておきたいことはたくさんあるのですが、この辺りで御礼の言葉を終えたいと存じます。

本日はコロナ禍の中、充分なおもてなしが叶いませんでした。またご招待できる人数にも制約も設けたりと、心残りの感は否めません。お許しいただきたくお詫び申し上げますと共に、ご臨席いただきましたことに重ねて御礼を申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。



祝賀会の様子⑥



祝賀会の様子⑦



当日受付支援の皆様



祝賀会会場アテンダントの皆様

特集

IMTS訪問記

日工販 専務理事

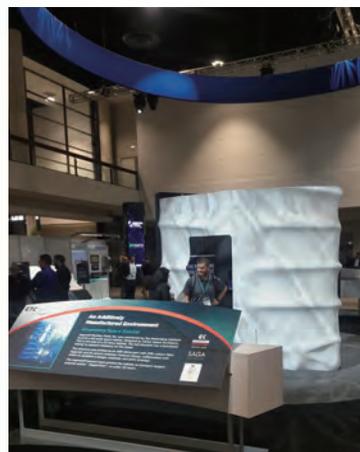
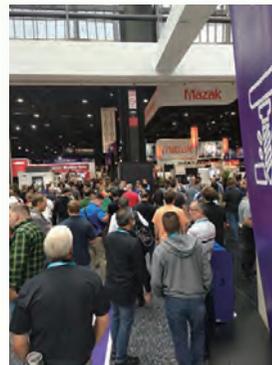
中島 和彦

9月12日から17日までの会期で開催された第33回IMTSを訪問した。

前回は新型コロナウイルスで中止ゆえ4年ぶりの開催であった。前回は過去最高の集客で訪問登録数が129,415名、展示面積132,315m²、2,123ブース、2,563社の参加であった。今回は、コロナの影響もあり、海外からの来訪者数減等で、訪問登録数が86,307と2010年以來の10万人切り、展示面積112,791m²、展示社数は1,816社。とは言え久しぶりのリアル展示会なのでそこかしこでハイタッチや握手が見られ活況であった。

今年のテーマは「Digital Manufacturing. Implemented. デジタルマニュファクチャリングは実用段階へ」。3Dプリンティング等のアディティブマニュファクチャリング(AM)メーカーの出展社数が110社と倍増。今回は機能部品や量産提案等が増えたと思う。展示の目玉として北館入り口に樹脂3D製の宇宙で使うらしい人が住めるキャビンも展示されていた。

切削加工メーカーが揃う南館第一列には、入り口にオークマ(株)、ヤマザキマザック(株)、(株)ジェイテクトの日本3社が大きなコマで並び、外国勢は左手に米国HAASが展示、第一列右手奥ではあったが韓国DOOSANも巨大なコマを取って展示していた。



研削加工等の北館第一列には（株）アマダ、（株）安川電機が展示。東館には THK(株)、三菱電機（株）等が大きなブースで参加しているなど、日本メーカーのプレゼンスは高かった。一方で、4年前のショーには筆者は行ってないので正確には比較できないが、中国企業のプレゼンスは薄かった。

一方、日本の大手でも参加しなかった会社及び参加はしたが機械の展示がない会社もあり、このようなショーに対する考え方が色々あると感じた。

各社を回って、米国の景況等について色々聞いてみたが、防衛・医療・電子機器関連等が好調で米国景況感悪くないとの声が多かった。自動車産業は一時持ち直し感があつたが現在はあまり良くないとの評の中、EV 関係についてはカリフォルニア州の規制など行政側の施策もあり、モーター関連等かなり出足が早いとの印象。また、航空機関係はエンジン等の供給が上手く行っていないようで生産はまだ上がってこないとのこと。

米国で特徴的なのは産業別に仕分けしにくい所謂ジョブショップが元気で、日本のように系列がないため、工夫次第でどんどん仕事を取って行くショップもあり、こうしたショップに強いセールスマンを雇い、自動車向けからの転換を図っている日本メーカーもあった。また、米国は広大ゆえ、IMTS に来ない地方の客でも結構な近代的設備を持っている工場があり、地方のショーに来る客も見逃せないとのこと。米 ISM 製造業景況指数も昨年春のピークからは落ちたが、8月でも52.8と50を上回っており拡大継続。

米国はマクドナルド等サービス産業の給与が高くなってきており、3K のイメージがある製造業では中々人が集まりにくいようで、人手不足に対応する自動化提案が多かった。また、この先、数十年のスパンで移民による人口ボーナスが続く米国は先進国中唯一購買力のある30~50歳代の人口が減少しない国だそうで、色々な意味で米国の底力を感じた次第。

新型コロナウイルスの大流行は終わったとバイデン大統領が宣言しているが、街中を歩くと、目抜き通りに近いところでも閉業したレストランや、飲食業テナント募集のサインも結構目立ちコロナの爪痕は感じられた。ただ、ほとんどの人が今やマスクをしておらず、IMTSに通う満員のバスの中で皆が大声でしゃべり合う中、筆者のみがマスクをしているような状況で、レストランなども満員に近い入りとなっており、大部分の人々はコロナ以前の行動に戻っていることを実感した。



CNC/精密旋盤「DLシリーズ テクノターン」 「ガイダンス機能」の 発展の歴史をご紹介します



大日金属工業株式会社
技術部 副部長

宇野 聡

1. はじめに

当社は CNC 旋盤を製造しているメーカーです。小型・中型・大型とすべての機種が横型ベッドの CNC 旋盤で、これらは高精度・高剛性に優れ、軽切削から重切削までの加工を得意としております。

CNC/精密旋盤「DL シリーズ テクノターン」が弊社の主力製品です。制御装置は FANUC 32i-B Plus を採用しております。

DL シリーズは、お客様に合わせて様々なオプションにも対応可能な応用性も持っています。

当社キャッチコピー「Fit The Machine」マシン（機械・真心）に寄り添ったモノづくりをまさに体现した機械と言えます。

DL シリーズの特長やバリエーションについては、弊社ホームページでご紹介しております。

ぜひ一度ご覧ください。

今回は DL シリーズに搭載している簡易型対話「ガイダンス機能」について、「荒取り^{*}」ガイダンスの改造や大日独自機能の追加等、約 30 年の発展の歴史をご紹介します。

^{*}：荒取りとは、ワークの外径や内径を旋削加工する機能。荒加工・中仕上げ・仕上げを選択可能。

2. DL シリーズの開発

1993 年頃、CNC 旋盤に対して「NC 機は操作が面倒」「NC 機は高価で採算が合わない」と、汎用旋盤に対して「今さら汎用機を導入しても」というお客様の声がありました。

このようなお客様にご満足いただけるよう、CNC 旋盤と汎用旋盤の両方の利点を備えた精密汎用旋盤の開発が決まり、1994 年に制御装置 FANUC 20-TA で簡易型対話「ガイダンス機能」を搭載した「DL シリーズ」を販売開始しました。

汎用旋盤と同様のハンドルを残し、もう一つの追加された同時2軸動作ができるハンドル（ガイダンスハンドル）にて直線・円の加工が可能な単動作と、画面中の設問に答えて数値を入力することでNCプログラムを作らなくても自動運転が可能なサイクル（荒取り・溝・ネジ切り・穴明け）があります。これらの機能は現在も使用されています。

DL機は、汎用旋盤からの更新で選ばれる等、既存のお客様に受け入れていただくことができ、徐々に販売数を伸ばしていきました。

3. 「荒取り」ガイダンスの改造

当初は現在ほど機能も多くはありませんでした。主に使われる「荒取り」は、データの入力が5ポイントまでで、加工径が2段の形状を入力するのが精一杯でした。

そのため、DLシリーズよりも上位のNC旋盤をお使いのお客様からは、もっと高機能にして欲しいというご要望がありました。やがて、DLシリーズが広まるにつれて、慣れたお客様からは「ポイントデータをもっとたくさん入力したい」という声が多く寄せられるようになりました。

この声を受けて、弊社内で検討を重ね、10ポイントまで拡張することが決定しました。

これまでもガイダンス機能を改造して機能を追加したことはありました。所定の位置で切込みや送り止める「定寸機能」は、非常に便利な機能ですが、改造は比較的小規模でした。

今回は初の大規模な改造です。マクロエグゼキュータと呼ばれる開発ソフトについて知見がなく、技術的な不安からソフト開発チームは消極的でした。そんな中、サービスで機械操作やNCプログラムを学び、ソフト開発チームに転属したばかりだった私は強く興味を感じていました。そんな私の様子を察した先輩から「やってみてはどうだ」と声をかけられたことで、この大きな案件に挑戦することとなりました。

私自身はソフト開発について詳しいわけではありませ



写真1：DLの操作盤



写真2：ガイダンス機能を操作するシートキー



写真3：DL機

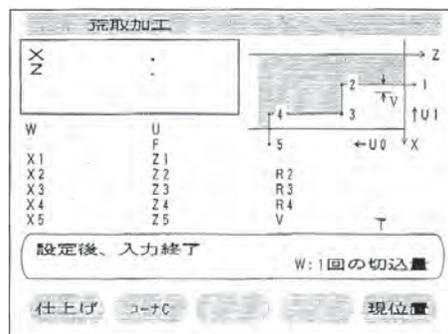


図1：開発当時の荒取り画面

んでしたから、FANUC が作成したソースプログラムや資料を見て、内容を解析することから始めました。一つまた一つと理解が進むにつれて、こんなに面白いことはない、時間を忘れて没頭してしまうこともしばしばありました。

そして数ヶ月後、10 ポイント入力可能な荒取りガイダンスが完成。実際に使ったお客様から「よくなったよ」と評価をいただいたときは大きな達成感がありました。

ただ、このすぐ後に FANUC から、なんと 28 ポイントも入力可能なガイダンス機能が提供されました。このときは「あんなにがんばったのに……」と複雑な気持ちでした。



図 2：現在の荒取り画面



図 3：現在は 28 ポイントまで入力可能

4. 大日独自のソフトへ機能拡充

結果はともかく、独学によるガイダンス改造の経験は大きな自信となりました。ソースプログラムを理解しているので、どのように改造すれば機能を実装できるのかが分かるためです。

また、サービスマンとしての経験から、DL シリーズに追加すべき機能を発想することができ、お客様に喜ばれる機能を考え、大日独自の機能を追加してきました。

「荒取りーくぼみ加工」

汎用旋盤では加工が困難で、「荒取りー標準加工」では対応できなかった、凹みや円弧のある形状を加工できる機能

「多条ネジ」や「ネジ切り位相合わせ（ネジ切りの再加工）」

汎用旋盤でも加工可能だが技能が必要な加工をガイダンスで簡単に加工できる

「ガイダンスデータ保存機能」

荒取り・ネジ切り・溝のサイクルのデータを保存する

「メモリカード入出力機能」

保存したデータをメモリカードで入出力する

なお、NC プログラムをご使用になる場合は、NC 文編集機能オプションを付けることが可能です。

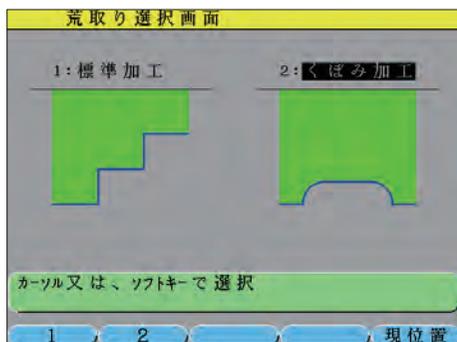


図 4：荒取りの選択画面

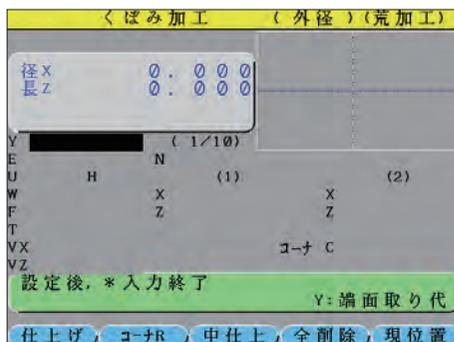


図 5：くぼみ加工 28ポイントまで入力可能



図 6：ネジ切りの選択画面



図 7：多条ネジの画面

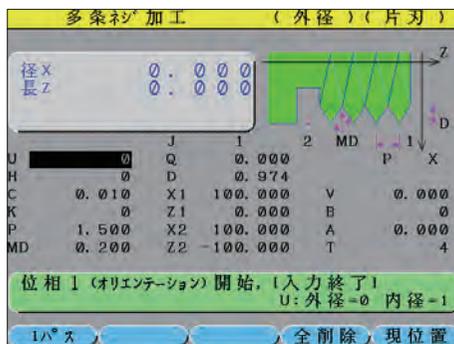


図 8：ネジ切り位相合わせの画面

5. 今後の展望

DLシリーズの開発から約30年。現在は、豊富なガイダンス機能と多彩なオプションがあり、汎用旋盤としてもCNC旋盤としても使える機械になりました。

汎用旋盤の改良からスタートしたDLシリーズは、汎用旋盤でできることはもちろん、汎用旋盤では難しいこと、CNC旋盤では複雑なことをガイダンスで簡単にできるように機能開発を続けてきました。

大日独自のガイダンス機能があれば、NCプログラムがまったくなくても要望通りの加工ができる、そんな理想像に向かって、今後も大日のガイダンス機能は進化を続けていきます。



私の 読書評

「峠(上・中・下)」

著者：司馬遼太郎

(出版：新潮社)

「最後のサムライ 河井継之助に学ぶ」

私が感銘を受けた本は、司馬遼太郎著『峠』です。舞台は、越後長岡藩（現在長岡市）になっており、今年長岡は開府400年に当たり、そして映画『峠 最後のサムライ』が今年の6月17日より公開となり、またコロナ感染の影響で中止になっていた長岡の花火が3年ぶりに開催される

とのおめでた続きで、長岡市は大いに盛り上がりを見せました。私事ですが長岡、小千谷は営業 Territories であり、長岡には深い関心を持つ事になりました。そして、JR 長岡駅にコーナーとして掲示されていた『峠 最後のサムライ』の宣伝チラシより河井継之助を初めて知る事になりました。

先ず、継之助を深く知るためには、動乱の幕末の時代背景を説明しなければなりません。

日本が未だ鎖国をしていた時代、世界はすでに欧米列強が、アジア地域に於いて植民地政策をとり、日本にも開国を迫り、黒船が来航し、徳川幕府は大混乱していた。

こんな時に河井継之助は、石高7万4千石の弱小越後長岡藩の老中に任ぜられ、北越戊辰戦争では藩より全権を委任された。不戦を貫く為新政府軍にも旧幕府軍にも就かず、最新鋭の武器で武装中立を目指したが、『小千谷談判』ではその願いも聞き入れられず、新政府軍との徹底抗戦を決意した。しかし、この激戦も絶対多数の新政府軍にはかなわず、継之助は足に重傷を負い、会津藩に逃れる途中の現在の南会津只見町で41年間の波乱の生涯に幕を下ろす。

その時詠んだ辞世の句『八十里 腰抜け武士の 越す峠』は有名な句となっています。

また継之助には、次の2つの座右の銘があります。

一つ目は『一忍以って百勇を支うべく、一静以って百動を制すべし』。意味としては、多くの人を動かそうとすれば、リーダーは信念をしっかりと持って揺れ動かず、みんなを見守っていなければならない。

もうひとつは『知行合一』。意味としては、世の中の事柄を知り、それを自分の心が正しき道と確信したのであれば、行わなければならない、行わずにはいられない。

継之助の凄さとは、徹底した情報収集によって将来を見抜く力があったことでした。現在に置換えると、黒船（コロナウィルス）が来襲したことなど、我々にはどうにも出来ない事なのですが、全てが出来ないという事では無く、我々にも出来る事は沢山あるということ。継之助の『知行合一』の精神を受け継いで、果敢に戦い続ければきっと勝者となりえるだろうと思うのです。

最後に、LINE 等の短文に慣れてしまい、長編小説（峠は上・中・下総ページ数1,510）を読む機会が無い折にこのようなチャンスを頂き、右脳が大いに刺激をされました。また、我々の先人達の歴史を振り返る事によって、現代において困難な事も解決に導くヒントがあるのではないのでしょうか？いや！きっとあるはずだ。

私も日工販のメンバーとして5年ほど皆様と活動して参りましたが、定年を迎える年齢となり最後のご協力のつもりで投稿させて頂きました。少しでも、お役に立てれば幸いです。

これにて筆を置きます。



株式会社NaITO
設備販売部

薄井芳博

リレー随筆



株式会社山善
機械事業部
岐阜兼小牧支店

外山和樹



皆様はじめまして、株式会社山善 機械事業部 岐阜兼小牧支店の外山和樹と申します。メルダシステムエンジニアリング株式会社 加工システム部 中野様より バトンを受け継ぎ寄稿させていただきます。まだまだ若輩者ですが、短いながらこれまでの経験で感じたこと、私の想いについて寄稿させていただきます。

2020年4月のコロナ真っ只中に入社し、今年で3年目となります。商社で働きたいその一心で就職活動を行い山善に飛び込みましたが、蓋を開けば所属部署・勤務地全て希望とは異なりました。機械事業部は新入社員に非常に人気の部署です。取り扱い額も大きく、製造業の核となる部分に携われるからでしょうか。しかし、当時私は初めの1年間ほどなぜ自分がこの部署に配属になったのか全く腑に落ちず、周りの先輩や同期はキャラの立つ人間や体育会出身の人間など個性派揃いの尊敬できる方達ばかりでした。また、私は文系出身であり工作機械というものを全く知らなかったので、お客様からの電話やメーカーさんとの打ち合わせとなると、飛び交う専門用語の応酬がまるで異国の言葉のように思えて、だれか通訳をしてくれないかと思う辛い毎日でした。

そんな際に思い出したのが、就職活動で自分はなぜ商社に行きたかったのかでした。それは製品に左右されるのではなく、“人”で勝負したい。という思いです。商社に製品を生み出す力はありません。メーカー様から購入させて頂き販売する形態であり、正直ユーザー様・販売店様からしても、山善から買おうが他社さんから買おうが製品は同じであり、結局何で決まるのかといえ、それは人としての部分だと私は思うのです。

商社の仕事は、やはり人としての部分が一番求められる仕事だと常々思います。上司からは「一事が万事！ 普段の立ち振る舞いがお客様のところでも出るぞ。」と、毎日のように社会人としての立ち振る舞いの部分で指摘・注意をよく受けます。メール・話し方の一つから飲み会での振る舞いやゴルフコンペでのマナー等までお客様や先輩にもイチから教えてもらいました。人間性の部分は学校でも教えてくれませんし、面と向かって誰かが言ってくれる場面はほとんどありません。この私が身を置いている業界・仕事だからこそだと日々感じますし、人間性を磨くこと・人として好かれることが仕事に直結しているのだと思っています。最近になってではありますが、素晴らしい業界・仕事に巡り会えたとやっと気づくことができました。

ここまで記載させて頂きましたが、正直これからの時代、商社不要論等が巻き起こる中で、これだけでは卸商社は淘汰されてしまうと思うところもあります。製品や企画の提案力を磨くためにも製品知識を身に付け、少しでも皆様のお役に立てるよう日々精進していきます。

以上、拙い内容ではありますが、駆け出しの私の想いを寄稿させて頂きました。最後になりましたが、いつの日か、私の文章を読んで下さった方々とどこかでお目にかかり、ご一緒にお仕事をさせて頂く機会がございましたら幸甚でございます。その際には、皆様の若い頃の御話を是非聞かせてください。

▶次号は、**キャムタス株式会社 東海営業所の内藤景太様**にバトンを渡します。誠実で頼りがいのある営業マンです！

“

工作機械と私

”



株式会社カネコ・コーポレーション
営業部 次長代理

重川 雅行

株式会社カネコ・コーポレーションに2005年に入社し今年で18年目になりました。

今回、このような機会を頂いたので入社当時から振り返ってみたいと思います。

機械販売商社に入社したのですが、これまでに営業職は経験していながらも、工作機械の事は全く知らず、加工の事はもとより旋盤？フライス？マシニングセンタ？など機械毎の特徴も全くわかりません。入社早々は先輩方に同行し、打合せ等に参加させて頂きましたが何語を話しているのかと言うくらい訳もわからず、こんな事を書いていいのかわかりませんが、ただ眠るのを我慢するような日々でした。

予習の為カタログを読んでも工作機械の事を全く知らないのので何が書いてあるか当然理解出来ませんでした。こんな日々を過ごしこの業界でやっていけるのかなと不安になる事もありました。

数か月後単独で営業活動を始める事になり、工作機械の事を分からないままでの営業活動ですので何も話す事が出来ず挨拶程度の訪問しか出来ませんでした。

加工や工作機械の事を知ったかぶりをした所でお客様にかなう訳もありません。

そんな営業をしていても商売に繋がる事は無いので今までの営業経験を活かし、ある意味開き直ってコミュニケーションを取ることに専念するような活動を行っておりました。

そうしているうちに分からない事をお客様に素直に質問が出来るようになりました。

分からない事をその場で質問させて頂いたり、メモを取る事に集中してしまい読み返している時に理解出来なかった事を改めて電話で確認すると、お客様に怒られる事もありましたが、親身になって教えて頂きました。そんな日々の繰り返しで少しずつですが加工の事や工作機械の事が分かるようになってきました。

そして少しずつ引き合いを頂くようになりましたが、今度は仕様打合せをしっかりと理解し切れていない事もあり、仕様の不備や要望違い等でお叱りを受ける事も多々ありました。

そんな時、メーカーの営業担当者様や技術者様に助けて頂き、事なきを得た事は多々あります。

お客様やメーカーの方々には親身になって対応して頂いたり、教えて頂いたりとお聞きできないほどのご迷惑を掛け何とか一人前の工作機械販売の営業マンにして頂きました。

本当にこの業界に入って関わって頂いた方には感謝しかありません。

そんな私も日々自分の営業をこなしながら指導する立場になりました。周りの皆様に支えて頂きながら、そしてここまで自らがやってきた事を伝えながら今後は多少なりとも支える側にまわってあげたいと思っています。

工作機械業界は浮き沈みの激しい業界ではありますが、世の中が回っていく上で、必ず必要な業界であります。今後もこれまで関わって頂いた方達に感謝の気持ちを忘れずに少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。

私の好きなお店

佐藤商事株式会社
機械部第一課 営業課長
片田 光彦

今回、ご紹介をさせて頂くお店は東京駅八重洲口側の路地裏にひっそりと佇む、韓国家庭料理屋「とうがらし」です。東京駅に隣接するビルに本社を構える当社から程近くにあるため、ランチはもちろん、コロナ禍以前は、同僚との息抜きの懇親会にも利用していました。

東京駅八重洲口側周辺は再開発が進み、2027年には大阪の「あべのハルカス」を超え、日本一の高さになる複合商業ビルの「Torch Tower (トーチタワー)/地上高さ390M」が竣工予定です。

そんな近未来的な東京駅八重洲口側にも、まだまだノスタルジーを感じさせる路地裏が残り、個性的な店が並んでおります。「とうがらし」もその一つ。

お店に入れば、韓国ソウルの繁華街、明洞に来たのではと思わせる内装と、出て来る料理のどれもが本場を彷彿とさせるクオリティーのため、非日常をすぐに味わうことができます。おすすめ料理は何と言ってもチヂミ。特に海鮮チヂミ（税別1,280円）がおすすめです。海鮮だしがしっかり出ている、表面はカリカリ、中はモチモチで、食べ出したら止まらなくなる美味しさです。

しかし、いつ再開発の波が、路地裏一帯にも訪れるか分からないため、高層ビル群の足元でノスタルジーを感じたい方は、お早めに訪ねてみて下さい。ちなみに、韓国出身のご亭主は、「宣伝は不要」と仰っていましたので、詳しい住所などは伏せておきます。



店舗外観



店舗近隣の路地裏



おすすめのチヂミ



サムギョプサル



ナムル





私の健康法



株式会社TAKISAWA
業務部 業務管理課
主任
大西 孝明

私は幼少期からスポーツ漬けの生活を送っており、大学ではスポーツ社会学を専攻していましたが、在学中に一年間の海外留学（アメリカ ハワイ大学にて）、卒業後にワーキングホリデー（オーストラリア メルボルン・タスマニアにて）を経験し、日本と海外をつなげることのできる仕事に就きたいと思うようになりました。

地元岡場で語学スキルを活かすことが出来る仕事がしたいと思い、株式会社滝澤鉄工所（現 株式会社 TAKISAWA）に入社いたしました。今年で入社11年になります。

入社当初は海外営業部（中国アジア地域）にて営業サポート業務、その後、様々な部署を経て、現在は業務管理課に所属しております。国内外の営業員が十分な営業工数を確保でき、売り上げに貢献できるようにするための仕事をメインに行っております。

「私の健康法」を一言で表すと“たくさん食べてたくさん動くこと”です。

冒頭にて触れたように、幼少期からスポーツ漬けの生活を送っていた為、10代半ばには、トレーニングやストレッチをすることが習慣化していました。

大学が遠方で、部活とアルバイトがあったため、曜日を問わず始発終電での通学が多かったのですが、あまり苦ではありませんでした。

食事はいつもどんぶり飯いっぱい+おかずたっぷり、満腹になるまで食べていました（当時、食事内容は一切気にしていませんでした）。

在学中に、体組成を図るチャンスがあったのですが、測定結果では基礎代謝・筋肉量がアスリート寄りであれしかったことを覚えています。それ以降、より良いスコアを出したいと思うようになり、野菜を多くとるようにする事や雑穀米を摂り入れるなどして、食事内容にも気を遣うようになりました。



大学卒業後はアグレッシブインラインスケートを始めました。

オリンピック種目になって注目を集めたスケートボードと似たような種目です。

負けず嫌いな性格で、友人たちに少しでも早く追いつきたかったため、始めた当初は平日・土日関係なしに時間を見つけては練習、へとへとなるまで滑る、という生活を送っていました。スケートは全身運動では常にバランスを取るので、かなりの運動量になっていたのだと思います。



現在は、滑る頻度と強度は落ちていますが、無理のない範囲で滑るようにしています。

生活面で気を付けている事は

- なるべく生活リズム・起床時間を変えない。(寝るのが遅くなったとしても、6時には起床する。眠気・疲れを感じた場合は、15分程度の仮眠をする)
- 朝昼夜の3食は必ず摂る。(なるべく自炊、量とメニュー制限はなし。制限をするとストレスになってしまうのでw)
- 生活のリズム付けと代謝アップの為、起床後・就寝前にトレーニングとストレッチをする(プランクやスクワット、プッシュアップなど自重でできるものがメイン)
- 自転車で行ける距離であれば、なるべく自転車で行動するなどになります。

私は、今年で36歳になりますが、食事量・体型・BMIなどは大学時代から変わっておりません。元々体を動かすことが好きなので、家事をしながらやテレビを見ながらでも出来る運動をすることが多いです。この辺りも心身の健康状態維持に寄与しているかと思います。

これからも、健康状態・メンタルヘルスの維持、ひいては向上ができるような生活を送っていきたいと思っています。





海外 だより

「再始動へ向けて」

MMC Metal de México, S.A. de C.V.
(三菱マテリアル株式会社)
Japanese Account Manager

笹本 浩介

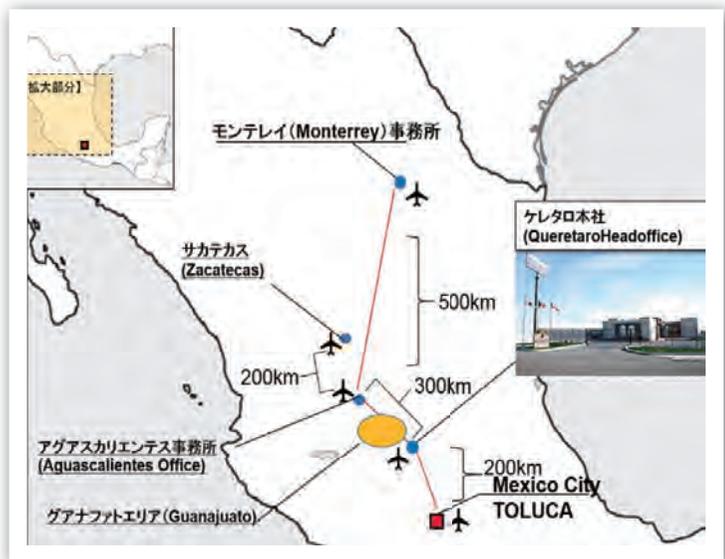


From Mexico

皆さん、はじめまして。MMC Metal de México, S.A. de C.V. の笹本と申します。2019年5月より三菱マテリアル社の切削工具部門の販売部隊の駐在員として、メキシコのケタロ州という場所で活動しております。

ケタロという都市についてですが、その中心部は石畳の道が続く美しい街並みが広がり、町のシンボルとして大切に保存されている水道橋を含めた地域一帯は世界文化遺産に登録されています。人口としては32州の内21番目と中規模の地域で、おおよそ京都府や宮城県と同じくらいの人々が住んでいます。一方で在留邦人としては首都のメキシコシティ、日系企業が多く進出するグアナフアト州・アグアスカリエンテス州に次いで4番目に多い都市となります。

弊社はこのケタロに本社を置き、北東部ヌエボレオン、中西部アグアスカリエンテスの3つの地域に拠点を設けております。自動車・航空宇宙・医療部品加工に必要となる切削工具、及び鉱山・トンネル掘削・都市開発に必要な建設工具を取り扱っております。また、当社にはお客様向けの工具知識向上を目的としたテクニカルセンターを2019年より開設しており、メキシコ国内のお客様へのより一層の技術サービスが提供できるよう努めております。



水道橋

人の往来と
中心部の様子独立記念日前の
踊り子

さて、2020年2月頃より感染拡大が始まったコロナウイルスですが、至近で州政府は屋外でのマスク不 사용을許可するなど、コロナ前の生活に戻りつつあります。当初は食品・ヘルスケア事業のような必要不可欠な活動以外は事業停止となるなど、製造業全体にとって大きな打撃がありました。2021年に回復するものと思われていたものの、巣ごもり需要拡大による自動車産業への半導体不足が影響し、想定していたような回復に至らなかった現状があります。メキシコに限らず他の多くの地域が同様の状況だったかと思えます。

しかしながら今年の5月以降緩やかに生産が回復し、9月における自動車輸出は前年同月30%超増加している状況にあります。メキシコはアメリカやカナダの経済に左右されると言われていますが、実際に同域内への輸出増加が該当月の全体輸出増を牽引しています。米国における主要貿易国の一つとして、今後もこのような増加傾向が続くと考えています。また、新型コロナウイルス発生以前の水準ではないものの、メキシコ内需についても増加傾向にある状況です。一時的に止めていた生産ラインを再開し、増産体制を整えるお客様が増えてきており、少しずつ活気が出始めているように感じています。

町には人の往来が徐々に多くなり、独立記念日の前には踊り子が色鮮やかな衣装を身に纏い、数時間をかけて町の中心部を練り歩きました。2年間何事も無かったかのような光景でしたが、何かの新しい始まりや再始動を感じずにはいられませんでした。

年間を通じて比較的温暖で天気の良いこと、タコスや肉料理が美味しいことなど魅力が沢山あります。一緒に歌いたくなるようなマリアッチの奏でる美しい音楽もあります。機会がありましたら、テキーラを飲みには是非メキシコへいらして下さい。

2022年度SE教育「SE資格取得講座」実施報告

日本工作機械販売協会
教育事業局

第32期「SE 資格取得講座」を、ビデオ配信形式を2022年10月2日（日）～10月30日（日）の期間で、また集合型講義を2022年10月26日（水）～10月28日（金）の期間で開催いたしました。

“新型コロナウイルス感染拡大”防止を主眼としてビデオ配信講義を昨年に引き続き実施しましたが、これまでのアンケート集約結果を踏まえ、今年度は集合形式の講義（名古屋会場の1か所のみ）も取り入れました。

受講者は各自の業務状況を見ながらビデオ配信形式か集合研修かのどちらかを選択して受講するというハイブリッド型での開講といたしました。



《SE 資格取得講座の概要》

当講座は設備機械営業経験3年以上（目安）の方を対象に、基本と実践知識を重視したビデオ配信講義（11科目）と専門知識に重点を置いた通信教育講座（10科目）から構成された、素材加工の中核をなす工作機械・プレス機械に携わるセールスエンジニアのための専門講座です。

ビデオ講義科目における“ものづくり現場に精通した実務経験者”の講義に加え、“関連メーカー技術者”の執筆による通信教材で短期集中的に知識を身につけることができます。

社内の業務キャリアによって、一般認定コース、特別認定コースⅠ・Ⅱの3コースから、より受講者に見合う受講設定ができます。

ビデオ配信講座・集合型講義のいずれかの受講修了後、その後1年間の受講期間のうちに通信教育講座までを無事に修了すると、日工販が認定する「セールスエンジニア（SE）資格」が授与されます。

合格者には申請により「認定証」を発行していますが、2022年11月末までのSE 資格認定者数は3,870名となりました。

なお、平成3年（1991年）の「日工販 SE 教育制度」創設以来、今年度までに受講した4,509名もの受講生が工作機械業界の発展のために活躍されています。

《実施講義》

講義時間 (目安)	講座名 (講師名敬称略)	講座内容
90分	工作機械市場とユーザー産業の動向 講師：水門 正良	工作機械の普及や技術度合いは、一国の産業進展を表すバロメーターにされることも多いため、世界市場と日本市場の動向、日本の製造業の課題、ユーザー産業の最新の動向の観点から解説。
60分	研削盤の用途と研削加工の動向 講師：重水 純一郎	平面研削盤、円筒研削盤、内面研削盤等の各種研削盤の構造と、実際に機械がどのように使われているかを分かり易く解説。
90分	加工図面・加工現象 講師：小林 龍一	図面を読む上での注意点、加工方法の紹介、切削の基礎知識、切削理論を、ビデオ動画も含めた解説により、セールス担当として必要とする基礎的な知見を修養。
90分	航空機産業の概要と工作機械の役割 講師：下村 栄司	航空機産業の特異性と工作機械の役割を解説。
90分	切削工具 講師：宮田 武典	工作機械の能力を最大限に活用するためには、切削工具についての知識が必要不可欠。工具選定や適切な使い方を身につけるために、切削工具の各部の機能を解説。

90分	生産性向上のための CAD/CAM 講師：山先 潤	複雑かつ高度になった NC 工作機械の真価を発揮させるために CAD / CAM システムは必要です。CAD / CAM とは何かという基礎から 5 面加工機、同時 5 軸、複合旋盤といった最新技術まで幅広く学習。
90分	生産システムと情報技術・ロボット技術 講師：森岡 昌宏	工作機械の生産性向上とともに、効率的な生産システムの構築がますます重要になってきている。情報技術の活用や、知能ロボット技術の適用の観点から講義。
90分	特殊加工 (レーザ・電子ビーム・放電) 講師：金岡 優	近年、加工部品への品質向上、コスト削減、生産性向上などの要求が高まる中で、特殊加工はこれらの要求に応える有力な加工方法です。講義では各種の特殊加工における加工原理と加工機の解説、および応用例の紹介。
90分	品質・規格・測定 講師：高橋 泰弘	品質管理の基本となる計測概要と精度、測定機器の種類、3次元測定機及び形状測定機のポイント、工作機械の検査規格、品質保証システム、ISO-9000・14000、CE マーク、PL 法など測定機器販売に必要な知識を講義。
90分	プレス機械：SEのための基礎知識 講師：畑 幸男	プレス機械の基礎講座をベースに汎用プレス機械の提案営業のための SE として必要なプレス機械の仕様に関する知識、プレス生産の自動化に使用される周辺装置とそれを組み合わせたシステム構築に関する知識と事例、及び生産性、成形性の向上に寄与する最新のサーボプレス動向について解説する。 最後にプレス機械の動向として 2019 年に制定された機械式動力プレス機械の国際規格と合わせてプレス機械の世界展開についての SE として必要な知識を解説する。
90分	激動の 2022 年 講師：内田 敬一郎	新型コロナウイルス感染拡大、その保健衛生上の懸念に加え、ロシアによるウクライナ侵攻、中国とアメリカを始めとする経済摩擦など、微妙な均衡ながらもこれまで比較的平穏な生活が出来ていたバランスが崩れつつあるとも言える環境になり、社会主義圏（専制主義圏 / 覇権主義圏）と民主主義圏（自由・民主・人権）の間には歴然としたギャズムが生まれ、新冷戦という形になって顕在化しつつある状況である。現在の流動的な世界情勢を踏まえて、今後どのように世界は動いていくのか、その際の日本の立ち位置はどうあるべきなのか、またどうなっていくのか・・・という観点で考察する。

【講師略歴】（敬称略）

- 水門 正良 : 元ヤマザキマザック(株) 常務取締役
 重水 純一郎 : (株)岡本工作機械製作所 営業本部 グローバルマーケティングリーダー
 小林 龍一 : DMG 森精機(株) 開発人事部 教育グループグループ長、工学博士
 下村 栄司 : 三井精機工業(株) 精機営業部 精機販売推進室
 宮田 武典 : 三菱マテリアル(株) 加工事業カンパニー 開発本部 加工技術センター
 山先 潤 : キャムタス(株) システム技術 課長
 森岡 昌宏 : ファナック(株) ロボット事業本部 ロボット機構開発研究所 技師長
 金岡 優 : 三菱電機(株) 産業メカトロニクス事業部 主席技師、工学博士
 高橋 泰弘 : (株)ミットヨ 品質保証部 部長
 畑 幸男 : (株)機械安全実践技術 代表取締役、(一社) 日本鍛圧機械工業会 技術顧問
 内田 敬一郎 : 三菱商事(株)、ダウ・ケミカル日本(株) 代表取締役副社長、日本化薬(株) 顧問を歴任。
 現在 (一社) 日本サプライチェーンマネジメント協会 顧問。

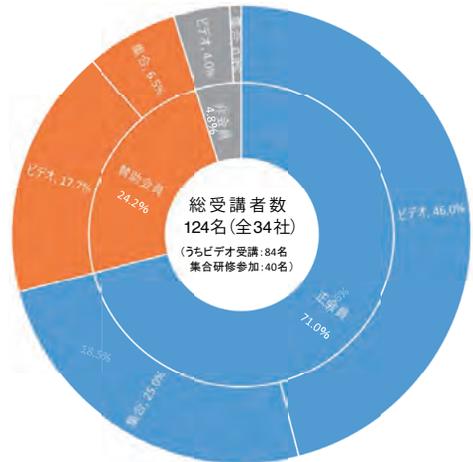
《2022年度受講者》

参加企業数34社総勢124名（ビデオ型受講84名、集合型受講40名）の、各社中堅社員を中心とする方々が受講されました。今回、ビデオ配信講義か集合型講義のどちらかを受講された方々は、11月以降開始の通信教育講座を受講～修了され、無事に日工販SE資格を取得されることを切に期待しています。

なお、講義形態は今後も集合形式や（今回のようにインターネットを介した）ビデオ配信形式なども開講の一形式として検討してまいります。講義においてお寄せいただいた受講者からのアンケート（意見・要望）やウイルスの感染状況等を踏まえ、相応の時期に実施要領を固め皆様にご案内できるように準備してまいります。

今年度の受講者内訳は右記のとおりとなりました。

2022年度SE資格取得講座 受講者構成



日工販SE合格者 第239回発表

2022年8月・9月・10月・11月の合格者は64名です。

2022年8月 合格者数：4名

認定No.	会社名	合格者名
22-31-3811	(株) 東陽	三富 功大
22-31-3812	(株) 東陽	川内 惇史
22-31-3813	(株) 日本精機商会	石井 博士
22-31-3814	オークマ(株)	西口 峻太

2022年9月 合格者数：5名

認定No.	会社名	合格者名
22-31-3815	三菱商事テクノス(株)	北川 琢人
22-31-3816	(株) 東陽	戴 立飛
22-31-3817	(株) 山善	梶 圭佑
22-31-3818	(株) 山善	藤井 太蔵
22-31-3819	(株) 山久	吉川 雅晴

2022年10月 合格者数：13名

認定No.	会社名	合格者名
22-30-3820	(株) 兼松 KGK	浦田 隆志
22-31-3821	(株) 兼松 KGK	今村 勇斗
22-31-3822	(株) 兼松 KGK	宮崎 陽
22-31-3823	三井物産マシントック (株)	秋庭 正幸
22-31-3824	三菱商事テクノス (株)	渡邊 貴拓
22-31-3825	ユアサ商事 (株)	山田 涼太
22-31-3826	(株) 不二	鎌田 恒
22-31-3827	(株) 山善	島本 遼平
22-31-3828	(株) 山善	李 沢皓
22-31-3829	伊吹産業 (株)	菅谷 浩司
22-31-3830	オークマ (株)	林 裕矢
22-31-3831	三菱電機 (株)	岸 真梨子
22-31-3832	(株) カシフジ	田中 武仁

2022年11月 合格者数：42名

認定No.	会社名	合格者名
22-30-3833	(株) 東陽	坂部 健三郎
22-30-3834	(株) 東陽	井津井 優也
22-31-3835	三菱商事テクノス (株)	原田 浩平
22-31-3836	三菱商事テクノス (株)	山崎 一哉
22-31-3837	三菱商事テクノス (株)	伊藤 拓磨
22-31-3838	ユアサ商事 (株)	鎗水敦司
22-31-3839	ユアサ商事 (株) 関東支社	徳永大暉
22-31-3840	ユアサ商事 (株) 関西支社	竹原 純一
22-31-3841	ユアサ商事 (株)	神崎 晃一
22-31-3842	ユアサ商事 (株)	田中 巧
22-31-3843	サンワ産業 (株)	山崎 照夫
22-31-3844	佐藤商事 (株)	安西 大輝
22-31-3845	佐藤商事 (株)	田尻 智大
22-31-3846	佐藤商事 (株)	堀川 瞬
22-31-3847	三栄商事 (株)	竹内 都伽瑳
22-31-3848	サンコー商事 (株)	丹波 翔太
22-31-3849	サンコー商事 (株)	大橋 潤也
22-31-3850	(株) 東陽	姫子松 直毅
22-31-3851	(株) 東陽	李 海寧
22-31-3852	(株) 不二	益田 直樹
22-31-3853	(株) 不二	松田 佳樹
22-31-3854	メルダスシステムエンジニアリング(株)	加藤 工稀
22-31-3855	(株) 山善	鶴川 圭伍
22-31-3856	(株) 山善	大西 聡
22-31-3857	(株) 山善	矢野 純平
22-31-3858	(株) 山善	谷奥 僚一郎
22-31-3859	(株) 山善	成田 麻衣子

22-31-3860	植田機械（株）	村上 泰司
22-31-3861	植田機械（株）	黒沼 雄太
22-31-3862	（株）ジーネット	藤田 龍
22-31-3863	（株）ジーネット	金本 祐輔
22-31-3864	日本産商（株）	田中春樹
22-31-3865	西川産業（株）	片山 浩輝
22-31-3866	三菱電機（株）	渡邊 雄介
22-31-3867	三菱電機（株）	内手 理登
22-31-3868	三菱電機（株）	野依 寛之
22-31-3869	三菱HCキャピタル（株）	熊澤 祥平
22-31-3870	岩谷産業（株）	成田 幸太郎
22-31-3871	岩谷産業（株）	鎌田 昇真
22-31-3872	（株）東日本マザック	茂木 晃平
22-31-3873	（株）ウエノ	久保 隆誠
22-31-3874	（株）ウエノ	小島 大輝

お知らせ

日工販ニュース表紙写真の公募について

日工販事務局からのお知らせです。
日工販ニュースを楽しく、また手に取っていただきやすい機関誌にしたいという思いから、表紙にその季節折々の写真を掲載することとしています。

そこで、以下要領により読者の皆様から表紙写真を公募しますので奮ってご応募ください。

募集要領

1. 対象写真

年5回の発刊月（5月、7月、11月、1月、2月）に合わせた写真（1枚以上）

※複数枚ご送付いただいた場合は、選定は事務局にて実施します。

※被写体は「風景」にこだわりません。季節を感じさせるものであれば何でも可。

2. 送付手段

以下要領により、電子データにてご送付をお願いします。

①日工販事務局宛てメールに添付： jmta@nikkohan.or.jp

メール件名：【「日工販ニュース」表紙写真（応募）】

②大容量ファイル配信ツール（「FireStorage」など）等の利用で送付

③USB や CD 等による送付（媒体返却を希望する場合は「返却要」のメモを同封してください）

※上記いずれの場合も、以下事項を必ず添えてください。

- 「撮影された方の会社名・所属部署・役職・氏名」
- 「掲載希望発刊月」
- 「撮影した場所や対象（風景の場合）、あるいは写真のタイトル」

3. 採否の連絡

採用された写真をご送付いただいた方には、当該写真が掲載された「日工販ニュース」および御礼として QUO カードを送付させていただきます。

採用の連絡は発送を以って代えさせていただきますが、後々の掲載に備えてご送付いただいた写真は事務局でストックしていくため、適用月に掲載されない場合でも不採用の連絡はいたしませんので予めご了承ください。



会社生活に 於ける 私の初〇〇



山下機械株式会社
機械部 係長

伊藤 雅文

初めての専用機受注

皆様初めまして。山下機械株式会社の伊藤と申します。

入社当時は機械や工具など全てが分からない状況の中で、日々の仕事やNC旋盤やマシニングセンターなど汎用機の引合もメーカー様やお客様から設備仕様の内容を逆に教えて頂いておりました。日々の引合や依頼事などを会社へ報告、メーカー様に伝える事が精一杯の毎日だったと記憶しています。

そのような中で5年目を迎えた時に初めてお客様より専用機のお引合を頂きました。

専用機は汎用機とは違い、引合時には参考となるカタログも無い機械をお客様との打合せで形にして決めていきます。その為に重要なのは、打合せ時の内容、特に仕様書などに書かれていない内容を議事録に上手く纏めることです。最後にサインを頂く事も重要だと上司から助言を頂きました。

お客様と機械やラインを構想から打合せして見積、受注に繋げていく過程の中で、加工条件に加えて客先の設備仕様・電気仕様など多岐にわたる取決めもしていきます。専用機は汎用機では出来ない生産性を要求されるので、切削条件を上げるための特殊刃具の検討や多方向を同時加工することで加工時間を短縮させる加工工程の検討、また稼働率を上げる為の安定したクランプ方法と切粉処理がしやすい構造の検討など様々な経験をさせて頂きました。

打合せ時には私が扱った事のない部材や内容が多く、メーカー様には何度も質問・確認をさせて頂くことが多かったと思いますし、覚えることの多さには当時驚いた事を今でも覚えております。そして成約した専用機が承認図として提出されてきた際には、機械図面を見る力もなかったので、図面の見方を社内製造部の方々などに教えて頂き、図面を頭の中で3D立体として想像し、お客様に説明して承認を貰う事の難しさも感じました。その後機械が完成して初めて見た実機が機械図面と合致しているかの確認チェックを行う事で機械構造を理解する力を付け、その後も多くの案件の積み重ねにより、最近はお客様に引合を頂いても、その場で自信を持って技術提案出来るようになってきたと思います。

設備納入前の立会時も、お客様自ら機械外観・動作確認と安全面などを事細かに確認され、その際にも多くのご要望やご指摘も頂きましたが、過去の議事録を確認しながら指摘事項が要望事項かについてお客様とメーカー様とで打合せをして判断致しました。そこで当初打合せをした際に纏めたサイン付の議事録が重要になったと改めて痛感しました。

また生産が始まった後も色々課題や問題が出ましたが、キメ細かく、丁寧に対応した事で、お客様との信頼関係もより高まり、お客様から「いい機械を入れてくれてありがとう」と言われた時は専用機営業の面白味を実感出来ました。

当社の企業理念でもあります「自動化と省人化を実現する」を目指し、製造現場の人手不足解消にも貢献出来る自動化装置に積極的に取り組みます。そしてお客様にとって「世界に勝てる品質とコストを叶える汎用設備や専用設備」をどちらでも提案・提供出来る知識と能力を付け、加工機案件が少ない時代になっても、お客様から一番に声を掛けて貰える営業マンを目指していきたいと思っております。

自社
紹介

我が社の履歴書



フリガナ カブシキガイシャ マルカ

社名 **株式会社マルカ**

本社所在地

〒540-0024
大阪府大阪市中央区南新町
二丁目2番5号

設立

1946年12月16日

代表者

代表取締役社長
最高経営責任者 (CEO)
飯田 邦彦

資本金

4億円

従業員数

698名(連結)

年商

532億円(2020年度連結)

社名「マルカ」の由来は、創業者田中嘉助の一字「嘉」を○で囲んだ「丸嘉」を屋号とした「丸嘉商会」が起源です。その後「丸嘉」「丸嘉機械」「マルカキカイ」と、変遷を重ね、お客様の悩みごとに機械には拘らない「Unique Solutions (唯一無二の解)」でお応えしようと2019年に「キカイ」を外して現在の「マルカ」になりました。

会社創業の精神は、社訓の「人生是誠也」に凝縮されていますが、その一端を創業者が著書（「誠心は力なり」1981年刊）の中でこう述べています。

『「変ぜざるものの上に立って常に変化せよ」という教えがあります。今日はまことに目まぐるしい変化の時代でございます。私たちは環境の変化に適応するために、つねに創意工夫、経営の革新を図って、時代を先取りして、この変化に挑戦して勝ち抜くことが必要であります。しかし、一方で私たちの経営において変ってはならないものがあります。それは「誠実と奉仕のこころ」であります。そして、これを基盤とした人間尊重の経営であると確信いたします。わが社の社訓、「人生これ誠なり」は内外に亘る人間関係、相互信頼の根本になるものであります。金で評価することの出来ない、人間のまごころと思いやりのこころを、大切にしなければなりません。』

この創業の精神をバックボーンとして今日に至るまでユーザー様と直接面談する営業スタイルを貫いております。

会社のスタートは、丸嘉株式会社を1946年12月16日に設立しました。今年で創立76年です。一面が焼野原の船場の南久太郎町に土地63坪、建屋30坪の物件を新事務所として30万円で購入、資本金18万円、役職員12名での出発でした。時を経た現在では国内10拠点、役職員698名になっています。



創業時の本社社屋と登記簿

取扱商品は自転車、軸受、工具、に加えて紙、文房具、毛織物、更には調味料や石鹼など何でもとり揃えていました。終戦間もない激動する時代の中で、どんなニーズにも何とかして応えていこうとした跡が窺えるとともに、この時期の苦労の中で創業の精神が培われたのだと思われます。その後、日本経済の成長に合わせて自転車から自動車へ、繊維から機械設備へ、と事業構造の転換を図った結果、現在では産業機械と建設機械が事業の中核となっています。

近年では機械設備の販売だけで完結せずに、製造業のスマートファクトリー化を応援するエンジニアリングを絡めた技術商社を志向し、プレゼンスの強化に努めて事業構造の更なる変革に取り組んでいる真最中です。

海外との取引の歴史も古く、1948年には軸受をタイへ初輸出、1959年にはタイバンコック事務所を皮切りとして、1960年米国シカゴ事務所、1965年フィリピンマニラ事務所などの海外拠点を、次々と開設して参りました。現在では北米11拠点、アジア中国14拠点、と海外25拠点の陣容となっています。

マルカ史上最大のニュースが2021年10月にフルサト工業と経営統合してホールディング会社体制になったことです。

新しいグループ理念は、

- ・ MISSION (日々果たすべき使命) : 『感動提案で今を拓き、変化の先まで伴走する。』
- ・ VISION (実現したい未来) : 『「叶えたい」が、あふれる社会へ。』
- ・ SLOGAN (社会への宣言・合言葉) : 『「その手があったか」を、次々と。』
- ・ 3 VALUES (3つの価値観)
 - (1) 「共創精神」(自分とは異なる人やその考えを認め合い、意見を交えます)
 - (2) 「成長意欲」(常に成長を目指してチャレンジする意思を持ち続けます)
 - (3) 「自分事化」(誠心をもって向き合い、自ら行動を起こします)

さらに、新しいブランド名は「UNISOL(ユニソル)」です。これは「UNIQUE」と「SOLUTIONS」を合成したグループ理念への我々の思いを込めた言葉です。

これからも100年企業を目指して、創業の精神を胸に、守るべきものは頑固に守り、変えるべきものは果敢に変える、常にMetamorphoseを繰り返す「マルカ」にご注目いただければ我々社員一同の望外の喜びです。



株式会社マルカ
秘書室 室長
佐藤 壮彦



社内報(創業14年目の新年)





統計資料

工作機械・FA流通動態調査1

統計1

単位) 百万円

37社合計		受 注				売 上					
調査月次		2022/09	前月比	前年比	2022/01 ~2022/09	前年度比	2022/09	前月比	前年比	2022/01 ~2022/09	前年度比
広義の 工作機械	工作機械	29,822	11.2%	5.1%	263,765	31.9%	28,273	45.3%	16.1%	211,075	22.4%
	ロボット・自動化機器	2,603	45.0%	-15.9%	23,627	11.1%	2,737	27.2%	-5.9%	17,431	-23.4%
	CAD/CAP・自動プログラム	299	26.1%	-25.5%	2,030	-24.2%	303	35.3%	28.9%	2,282	5.7%
	鍛圧・プレス・溶接	824	-55.0%	-51.8%	14,442	58.6%	1,198	-17.2%	155.9%	9,167	-6.0%
	ダクト・押出、射出	807	6.3%	-35.1%	10,072	-15.9%	1,353	-0.8%	-15.9%	10,291	19.1%
	小計	34,355	9.3%	-1.4%	313,936	28.1%	33,864	37.4%	14.5%	250,246	16.0%
工作機械以外の扱い商品		24,065	-34.2%	-13.2%	279,706	-22.3%	30,126	20.1%	17.1%	251,251	20.8%
合計		58,420	-14.1%	-6.6%	593,642	-1.8%	63,989	28.7%	15.7%	501,497	18.4%
従業員数		1,598	-0.4%	2.0%							

統計2

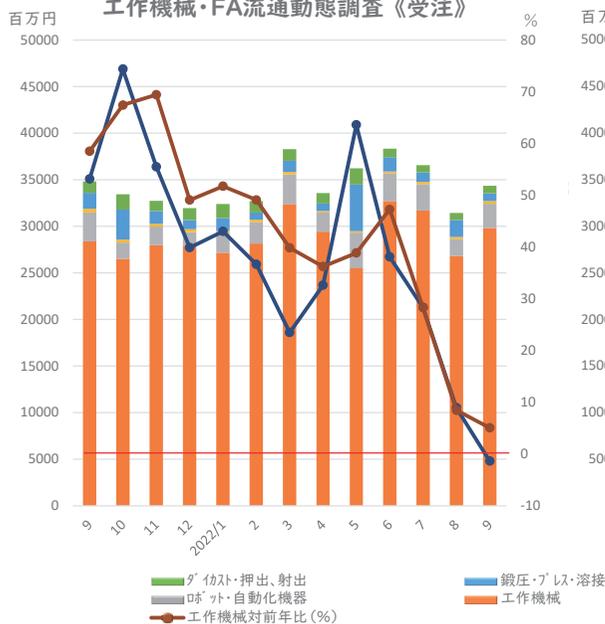
単位) 百万円

28社合計		受 注				売 上					
調査月次		2022/09	前月比	前年比	2022/01 ~2022/09	前年度比	2022/09	前月比	前年比	2022/01 ~2022/09	前年度比
内訳	直販	22,298	2.7%	-7.0%	221,835	-1.5%	28,584	53.6%	45.2%	196,649	15.1%
	(内リース)	1,319	51.0%	37.2%	6,713	14.8%	1,107	-1.1%	-13.0%	7,316	13.1%
	卸	10,928	6.1%	-16.8%	96,451	32.9%	10,972	46.4%	17.7%	84,594	51.9%
	輸入	4,209	265.8%	48.9%	22,267	-52.2%	2,142	42.2%	-33.6%	17,882	-13.3%
	輸出	10,842	-56.5%	-5.6%	160,232	-10.4%	12,699	-6.2%	-1.5%	126,589	34.0%
	(内間接輸出)	1,801	-15.0%	38.0%	19,362	-44.3%	2,614	41.7%	104.5%	21,458	100.9%
従業員数		1,117	-0.6%	3.3%							

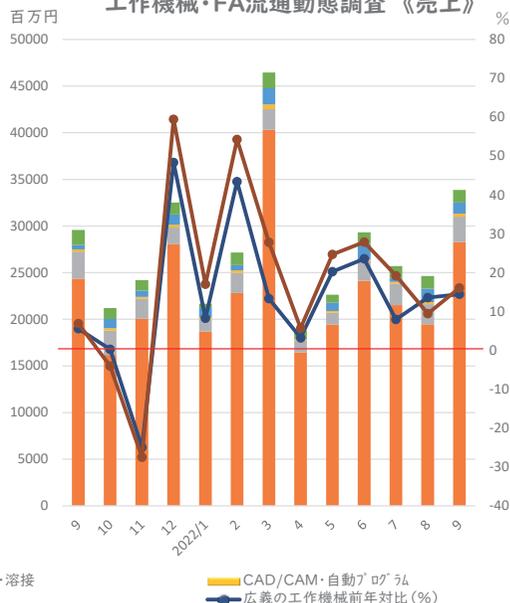
注: 会員80社中、統計1に関しては37社、統計2に関しては28社の回答を得て集計したものである。

折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比であり、データ提供会社総数は40社である。

工作機械・FA流通動態調査《受注》



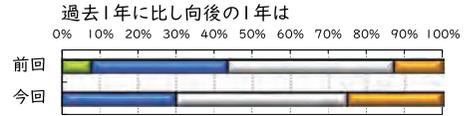
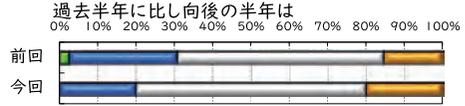
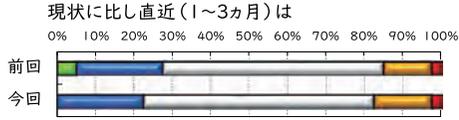
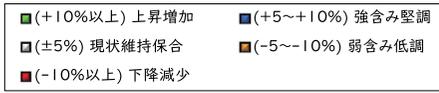
工作機械・FA流通動態調査《売上》



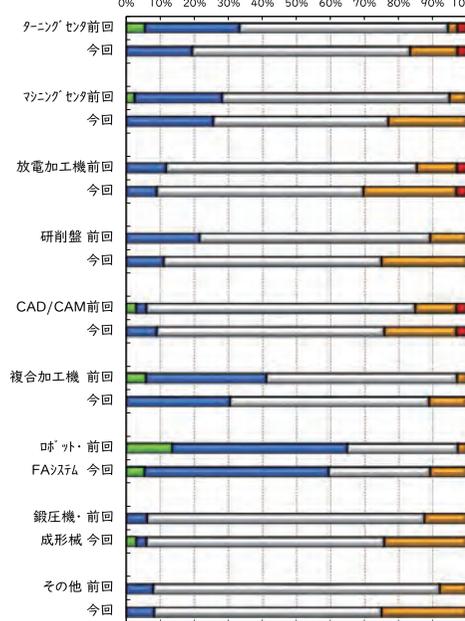
工作機械・FA流通動態調査2

今回2022年10月調査／前回2022年7月調査対比

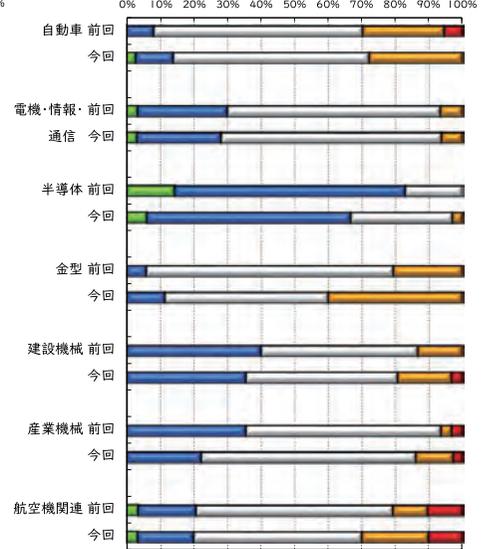
1. 工作機械全体見通し



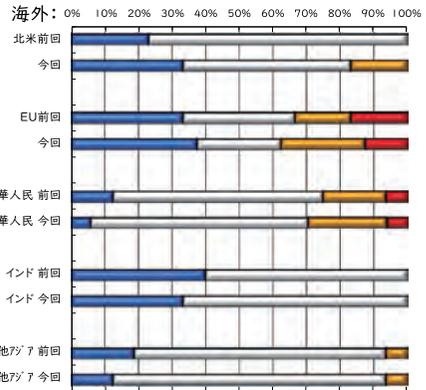
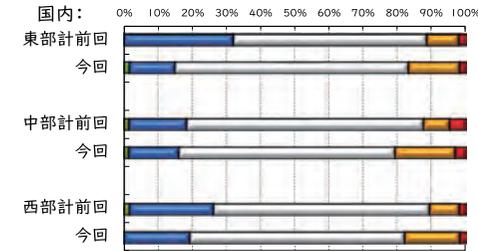
2. 製品別向後約半年の見通し



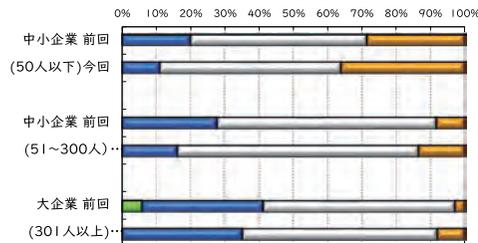
3. 市場別向後約半年の見通し



4. 地域別向後約半年の見通し



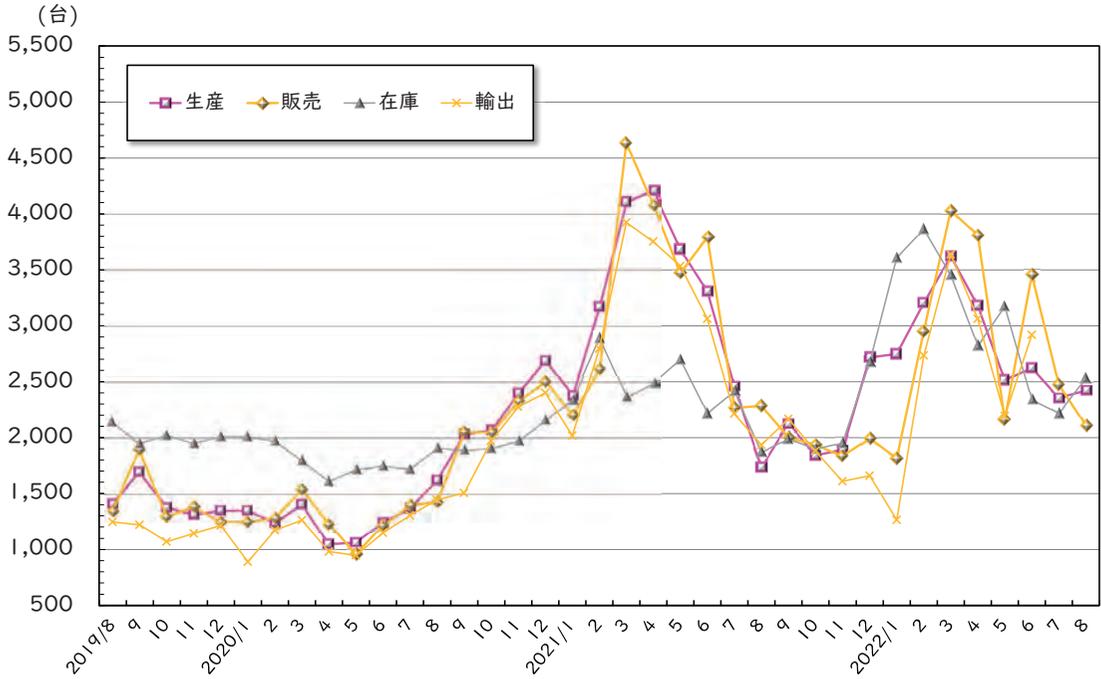
5. ユーザー規模別向後約半年の見通し



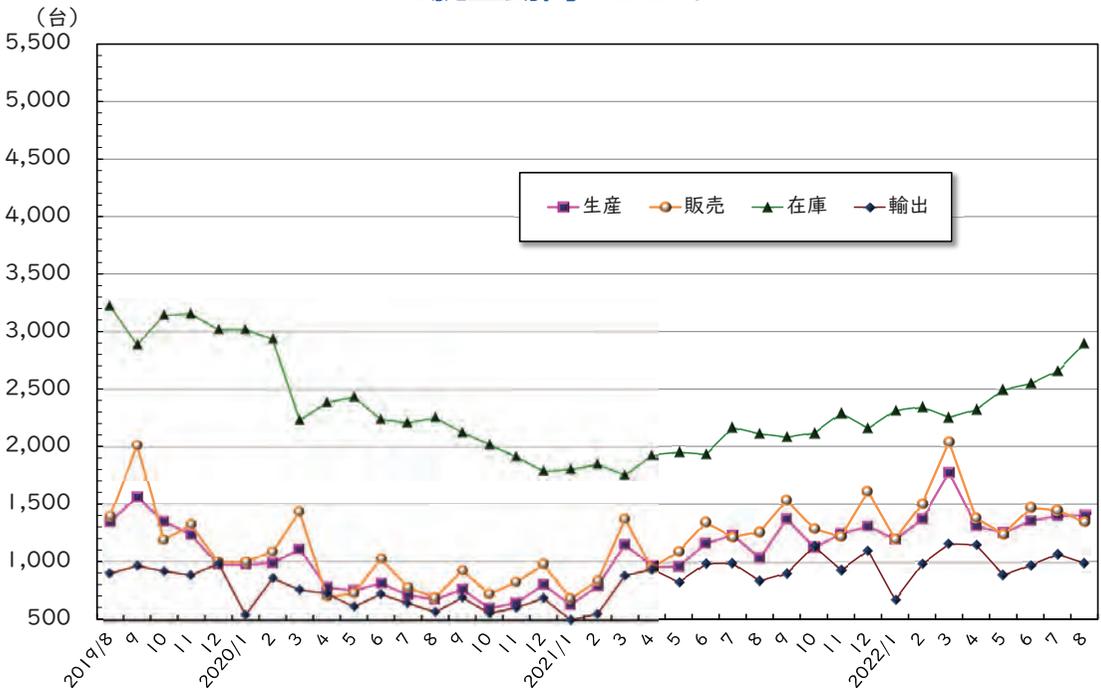
注: 調査データは日工販ホームページをご覧ください。

見てわかる 3年間の代表2機種トレンド

マシニングセンタ動向 ~直近3年~



NC旋盤動向 ~直近3年~



出所：経済産業省「生産動態集計」、財務省「貿易統計」

工作機械業種別受注額(2022年9月)

2022年10月25日発表

(単位：百万円・%)

需要業種	期間	2021年	2022年	2022年	2022年	前年	2022年	前年	2022年	前年	前年	前年
		累計	4月～6月	7月～9月	10月～9月	同期比	累計	同期比	9月分	同期比	9月分	同期比
機械製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	17,981	5,133	4,327	14,503	84.3	67.1	2,078	103.4	2,078	162.6	78.2
	2. 金属製	40,274	13,597	13,337	39,091	98.1	95.6	4,861	133.8	4,861	119.1	85.4
	3. 一般機械	200,489	67,123	61,626	191,138	91.8	104.9	20,431	136.7	20,431	102.8	86.4
	(うち金型)	26,785	9,599	9,286	28,153	96.7	108.6	2,153	157.7	2,153	61.5	57.3
	4. 自動車	115,123	36,655	38,949	106,036	106.3	137.1	12,046	125.0	12,046	89.2	114.5
	(うち自動車部品)	84,015	25,045	26,651	72,341	106.4	125.9	8,332	115.5	8,332	92.2	114.0
	5. 電気機械	45,020	13,600	13,490	45,450	99.2	94.2	4,190	152.4	4,190	77.8	77.4
	6. 精密機械	24,423	7,201	7,048	23,284	97.9	110.8	2,572	141.1	2,572	116.9	11.7
	5～6. 電気・精密計	69,443	20,801	20,538	68,734	98.7	99.3	6,762	148.4	6,762	89.1	88.9
	7. 航空機・造船・運送用機械	16,026	4,502	3,742	13,184	83.1	95.5	1,541	135.1	1,541	124.1	83.7
	(うち航空機)	4,791	1,180	1,434	3,830	121.5	110.2	514	125.2	514	78.6	64.8
	3～7. 小計	401,081	129,081	124,855	379,092	96.7	111.7	40,780	135.1	40,780	96.6	93.5
8. その他製造業	26,774	8,058	6,885	20,687	85.4	81.4	2,068	107.0	2,068	105.2	73.4	
9. 官公需・学校	7,349	270	878	1,632	325.2	31.2	370	39.2	370	136.0	34.8	
10. その他需要部門	10,582	3,332	3,900	10,491	117.0	147.2	1,648	146.3	1,648	142.9	136.9	
11. 商社・代理店	6,283	1,842	1,982	5,248	107.6	140.0	614	123.8	614	74.1	125.1	
1～11. 内需合計	510,324	161,313	156,164	470,744	96.8	105.9	52,419	131.2	52,419	101.2	91.1	
12. 外需	1,031,095	301,730	276,423	873,065	91.6	107.2	98,429	116.6	98,429	112.4	113.1	
1～12. 受注累計	1,541,419	463,043	432,587	1,343,809	93.4	106.7	150,848	121.3	150,848	108.3	104.3	
(内NC機)	1,514,935	454,924	424,103	1,318,835	93.2	106.3	148,151	121.0	148,151	108.9	104.3	
販売額	1,283,499	362,729	402,230	1,156,449	110.9	121.2	163,116	122.2	163,116	129.6	129.1	
(内NC機)	1,261,733	357,717	395,524	1,138,629	110.6	121.1	160,516	122.4	160,516	129.6	129.0	
受注残高	701,005	858,008	888,365	888,365	103.5	150.2	888,365	150.2	888,365	98.6	150.2	
(内NC機)	681,753	833,380	861,959	861,959	103.4	149.8	861,959	149.8	861,959	98.6	149.8	

出所 (一社) 日本工作機械工業会

「自社紹介」コーナーの新設について

立冬を過ぎ、街の装いも秋から冬、そして一気にクリスマスモードに衣替えです。
沈みゆく太陽も最近やけに赤々と見えて、空気が冬に変わってきたことを身に染みて感じるようになってきました。

日工販 NEWS も衣替えしてそろそろ2年を迎えようとしています。
皆さんに読んでいただきやすい情報誌、会員相互の絆を深める広報誌としてリニューアルいたしました
が、その一環とも考え、今年度初頭に広く読者アンケートを実施いたしました。

工作機械そのものに関する専門的な情報掲載を求めのご意見や、時流に乗ったダイバーシティの観点から記事化を求めのお声、また現在掲載している題材の拡幅を求めのお声など、様々にご意見を頂戴いたしました。

中でも、「自社を紹介するコーナーを設けて欲しい」との回答を多くお寄せいただいております。

アンケート集約後、早速日工販調査広報委員会にて協議検討いたしました結果、読者ご要望を反映させるべく、(少しづつになるかもしれませんが) まずは「自社紹介」コーナーとして、正会員を対象にご所属の会社をご紹介いただく題材を新設することといたしました。

当面は、事務局でご寄稿いただく企業を選定してまいりますが、企業プロモーションとして有効にご活用いただける場でもありますので、正会員の中でご要望がございましたら事務局に直接ご連絡くださいますようお願いいたします。

ご連絡いただいた企業を優先にして掲載を進めてまいります。

皆様の広報誌として、これからも是非日工販 NEWS を有効活用していただきますように、よろしく願いいたします。

自社紹介

我が社の履歴書



フリガナ カブシキガイシャ マルカ		設立	代表取締役社長 最高経営責任者 (CEO) 飯田 祥彦
社名 株式会社マルカ		設立日	飯田 祥彦
本社所在地	TEL	代表取締役	役員
〒540-0024 大阪府大東市中央区南新町 二丁目2番5号	1946年12月16日	飯田 祥彦	532 関西 (2020年度掲載)
業種	役員数	役員	
4業用	4名(候補)		

社名「マルカ」の由来は、創業地中津郡の一宇「丸」をひいて「丸屋」を縮略した「丸屋商会」が起源です。その後「丸屋」「丸屋機械」「マルカキカイ」と、変遷を重ね、お客様の悩みごとに機械には対応しない「Unique Solutions (唯一無二の解)」でお応えしようと2019年に「キカイ」を列して現在の「マルカ」になりました。
 会社創業の精神は、社訓の「人生観望社」に凝縮されていますが、その一環を創業者が書簡（「望心は力なり」1981年刊）の中でこう述べています。
 「『変わるものの上に乗って常に変化せよ』という教訓があります。今日はまことに目まぐるしい変化の時代でございます。私たちは時代の変化に適合するために、つねに加工業、軽業の事業を断って、時代を先取して、この変化に挑戦して勝ち抜くことが必要であります。しかし、一方で私たちの経営において変ってほならないものがあります。それは「誠実と専任のこころ」であります。そして、これを基盤とした人間尊重の経営であると思っております。
 なお、我が社社員「人生これ無常なり」は特別に仕える人間関係、相互信頼の基になるものであります。全てが評価することの出来ない、人間のまごころと思いやりのこころを、大切にしなければなりません」
 この創業の精神をバックボーンとして今日に至るまでコンピュータと直接面談する営業スタイルを貫いております。
 会社のスタートは、丸屋株式会社を1946年12月16日に設立しました。今年で創立76年です。一帯が機軸の発展の場久太郎閣下に土壌53坪、建屋300坪物件を新築移転して30万円で購入、買本金15万円、役員額12名での出発でした。時を経て現在では国内10拠点、役員員698名になっています。




創業時の株式会社登記簿

本誌 36 ページをご覧ください！



議事録

第299回定例理事会議事録

日 時：2022年7月6日（水）14:30～16:30
場 所：専売ホール（Web 併用）
出 席 者：会長、副会長2名、専務理事、理事23名、監事2名

会長挨拶の後、審議に入った。

[付議事項]

(1) 50周年記念式典開催方法の件：

10月21日予定の50周年記念式典について、事務局より下記の方針を提案

① 感染状況が悪化しない限り、概ね下記の時間割で開催する

13:00～14:00 経産省局長表彰及び会長表彰

14:15～15:45 記念講演（講師未定）

16:00～17:30 祝賀会

② 祝賀会の開催可否については9月の理事会で再度判断する

③ 進行等の詳細については調査広報委員会で詳細を詰め9月理事会に諮る

講師の選任については引き続き協議することとし、開催方法については全理事より了承を得た。

[報告事項]

(1) 第53回総会報告（6/3）

専務理事より資料に基づき説明。

(2) 2022年度新体制

会長の任命により下記とする。

中部地区委員長：羽賀理事（←高田理事）

総務委員長：依田理事（←羽賀理事）

(3) 中部地区正副懇談会（6/20）

高田会長より説明。

18社出席。地区委員長を2期4年を原則とすること。2022年度行事（工場見学はバスを使わない）、アルコールチェックの件。

(4) 基礎講座報告

専務理事より資料に基づき説明。

会長より教育事業を今後どう発展させていくかは教育委員会・政策委員会でも議論を重ねたい。

(5) 日工販 NEWS アンケート結果報告

金子副会長より資料に基づき説明。会長から日工販 HP にニュースが載っている旨を各理事からも各社社員にも通知してほしい。

(6) 流通動態調査2022年5月

専務理事より資料に基づき説明。

(7) ロボットテクノロジー・ジャパンについて：

会長から説明。6/30～7/2開催されたニュースダイジェスト社主催のロボットテクノロジー・ジャパンについて178社の参加を得、結果的に非常に多くの人に来場いただき41,880名の来場。久しぶりのリアル展示会で内容も濃く、現場サイドの方が多く来ていただき真剣に見られていた。

以上

第300回定例理事会議事録

日 時：2022年9月7日（水）14:00～16:15
場 所：大阪産業創造館（Web 併用）
出 席 者：会長、副会長2名、専務理事、理事19名、監事1名

会長挨拶の後、審議に入った。

[付議事項]

(1) 50周年記念式典開催方法の件：

10月21日予定の50周年記念式典祝賀会について、事務局より下記の方針を提案
祝賀会の開催について、東京都や政府からの規制は現在ないが300～400人規模の立食パーティ
を開催できる状況ではまだないと考えるので、招待人数を絞って2m径テーブルに6名を限度と
して着座・コース料理の提供とする。その場合の最大収容人数は約190名。正・賛助会員合計
約160社だが全社が来るわけでもないので、1社最大2名で案内したい。

開催内容等についても説明。局長表彰5名。会長表彰は故岩切氏も入れて5名。講演会講師は
(株)中西自動車産業リサーチの中西孝樹様を予定。

祝賀会開催方法については、全理事より了承を得た。

[報告事項]

(1) 東部地区委員会（7/14）

東部地区委員長・豊田理事から報告。

昨年は何もできずだったが、7/14に初の会合を持った。初の会合で自己紹介・日工販の説明等
も行ったが、本年度の行事計画を討議。製品研修会は4年ぶりのJIMTOFでもあり10月5～6
日の2日間で計11社のメーカーを招いて開催。11月予定の懇親ゴルフは延期、12月2日に忘
年懇親会。工場見学会も検討中。その他の要望としてはEV関係等の勉強会を検討してはとの意
見もあり。また各社の状況等について情報交換を行った。

(2) 調査広報委員会（7/28）

調査広報委員長・金子副会長から説明。

初のリアル会議だったが、委員長が偶々「濃厚接触者」となったためWeb参加。

会議資料に添付されている議事録に沿って説明する。日工販NEWSのアンケートに関しては、
前回理事会で定量情報について説明したが、定性情報について議論。EVについての取組の紹介
と言う要望があったが依頼先を探すのも難しいだろうとして見送り、カーボンニュートラルにつ
いては興味深いテーマなので是非記事化を図りたい。自社紹介コーナーについては正会員各社を
順次ということで11月号が初回となる。「女性活躍」の要望については「ダイバーシティ」の観
点で題材を検討していく。50周年記念行事の記念品については、会長表彰についてはガラス製
の彫り文字の盾、局長表彰についても記念品を添えることを決定。来場者への土産はクッキーを
配付。日工販NEWSの広告依頼先については広告掲載希望メーカーがこれまで少なかったが、
新規に希望を募り別途お願いする方向とする。

(3) 西部地区懇談会 (8/31)

西部地区委員長・植田理事から説明。

ほぼ2年半ぶりにリアルでの開催。正会員・賛助会員に参集いただき情報交換の場を持った。リアルで参加者が集まるか危ぶまれたが結果的に38社62名の参加を得た。新組織の報告、西部地区行事の案内を行った。行事としては10月13日の製品勉強会、11月30日の忘年懇親会、更に3月初旬或いは中旬に再度情報交換会をやる予定。その後各社から現状についてのお話を伺った。概略は次のとおり。正会員の状況では受注については足元順調で良い状況であるが、長納期化による売上とのバランスが崩れているのが心配。先行きについても夏までの好調感が、ここに来て悪いわけではないが踊り場感がありこれも心配。賛助会員メーカーの意見としては、こちら受注は非常に好調であるが、部材調達の問題が非常に大きく影響が出てきており、今後もまだ先行きが見えず心配である。また全般的に皆様「西高東低」であるとの意見が多かった。特に自動車の生産に関する影響が大きく、西部は自動車関連が少ないから西高東低、即ち業界自体が車に依存している傾向が非常に大きいということ。またリース会員からは日工会の数字とリース業界の数字が全く比例しておらず非常に苦戦している。第6回事業再構築補助金からリースの適用が認められたため期待したが現時点ではあまり効果が出ておらず心配している。今後は勿論活用を呼びかけ続けるが、他の不動産関係等の事業分野に比し、工作機械関係の比率が非常に下がってきており、業務の内容が大きく変化しつつある。

(4) 基礎講座アンケート

SE 資格講座申込状況

教育委員長・池浦副会長から報告。

現在SE講座について募集中だが、集合形式での講座かビデオ配信方式かについては、約7割がビデオ配信を希望。受講希望者は125名。このコロナの状況下Webと言う手法もあって何とかこれで実行していきたい。(事務局より補足：講師の状況に変化はないが、テキスト改訂やビデオの撮影等で事務局は多忙)

(5) 各地区製品研修会

事務局より説明

製品研修会の話の前に、先日の西部地区懇談会の件で、事務局は「連絡窓口」に連絡をしているが、理事・監事の方に伝わっていない例が散見されたため、今後、地区の重要行事については理事・監事全員にも重複となるかも知れないがご連絡を入れることにする。

東部地区は10月5・6日の2日間でこれまでに参加のないメーカーにも来て頂く。中部は10月20日、西部は10月13日の予定。

(6) 流通動態調査7月

事務局より配付資料に基づき説明。

以上

第128回調査広報委員会議事録

日 時：2022年8月1日（月）15:00～16:20
場 所：日工販会議室
出 席 者：委員長、委員3名、事務局2名

【議 事】

(1) 日工販 NEWS アンケート結果について

事務局から説明。定量情報については集約したグラフにより、また定性情報については「要望テーマ」「事務局への意見」の双方につき説明。特に「要望テーマ」の点では以下が特筆すべき事項として議論された。

- 機械技術面で「EV」についての取組み事例紹介を要望されているが、まだ事例としては少ないと思われるし、依頼先選定も困難であろうと思われる。
- 産業政策面で「カーボンニュートラル」の取組み事例を要望している企業があるが、非常に興味深いテーマだと思われるため数社（大企業あたりをターゲット）にヒヤリングして記事化を検討。
- 自社紹介コーナーについては、発行回あたり1社でも構わないので（基本）正会員を対象に実施。
- 女性活躍の記事化要望があったが、「女性～」を前面に出して題材とするのはジェンダーギャップの観点からあまり相応しくないとと思われるため、時勢的に「ダイバーシティ（多様性）」の観点でアプローチして題材を検討することとした。継続的な位置づけでなくても、（単発の）特別寄稿のようなコーナーであってもよい。
- 既存題材の「話題の技術」コーナーは現在1社寄稿としているが2社寄稿でも構わない。（11月号から対応）

(2) 50周年記念行事

専務理事から説明。場所はグランドアーク半蔵門。10月21日（金）を予定。

会長表彰においては、「ガラス製（彫り）」贈呈にて決定。

また局長表彰においては、表彰状に記念品を添える。

来場者にはお土産を渡す予定。記念誌は発行しない。

表彰時間は1時間程度、祝賀会が最悪出来なくなった場合も考慮し、講演会を主催の予定（講師は未定）。

(3) 日工販 NEWS 広告依頼先について

これまで広告の依頼先は協力企業が比較的絞られていたが、今後は賛助会員メーカーの中から広告出稿希望のある企業を探索し別途依頼予定。

以上

製品研修会

日工販地区委員会活動のひとつでもある製品研修会。JIMTOF 年にあたる今年度は、出品される一部メーカー様により、出品製品を中心に事前説明がありました。このコロナ禍で3年に亘り中止していた当研修会を、今年度は各地区とも企画～開催いたしました。



東部地区 《日時》 2022年10月5日(水)～6日(木)
いずれも10:00～17:00
《会場》 専売ビル8階ホール
《参加メーカー》 10社
《参加者数》 5日:27社/69名、6日:25社/53名



中部地区 《日時》 2022年10月20日(木)9:10～16:00
《会場》 名古屋市工業研究所 第一会議室
《参加メーカー》 6社
《参加者数》 24社/79名



西部地区 《日時》 2022年10月13日(木)10:00～17:00
《会場》 新大阪江坂東急 REI ホテル
《参加メーカー》 6社
《参加者数》 20社/58名

西部地区 正・賛助会員情報交換会

日 時:2022年8月31日(水)15:00～17:00
場 所:新大阪江坂東急 REI ホテル
出 席 者:38社/62名

(1) 西部地区委員長ご挨拶

(2) 報告事項

●人事の件

6月3日の総会において、依田会長(三菱商事テクノス(株))退任にあたり、中部地区委員長であった高田新会長(株井高)に交代。

高田新会長より、東部地区 金子副会長(株丸紅ソリューションズ)・中部地区 池浦副会長(株不二)・西部地区 赤澤副会長(赤澤機械(株))の任命。中部地区委員長 羽賀委員長(株東陽)・総務委員長 依田委員長(三菱商事テクノス(株))の新人事。

●今期 西部地区スケジュールの件

- ① 10月13日 10:00～17:00 新大阪江坂東急 REI ホテル
JIMTOF2022 出展機勉強会
- ② 10月21日 日工販 50周年記念式典 ホテルグランドアーク半蔵門
- ③ 11月30日 15:00～19:00 予定 新大阪江坂東急 REI ホテル
日工販西部地区忘年懇親会
- ④ 3月初旬～中旬 西部地区 正・賛助会員情報交換会 予定
を報告。



以上

■ 会員消息

商号変更

〔賛助会員（製造業）〕 2022年10月1日～ 株式会社滝澤鉄工所 → 株式会社 TAKISAWA
〔賛助会員（リース業）〕 2022年10月1日～ 三菱電機クレジット株式会社 → 三菱電機フィナンシャルソリューションズ株式会社

■ 編集後記

思い起こせば2020年度のJIMTOFはコロナ禍の影響で開催を予定していた会場の東京ビックサイトが「東京2020オリンピック」の国際メディア、プレスセンターとして利用される事となり初めてのオンラインでの開催となりました。

対面での展示会に慣れていた日工販会員の皆様も戸惑う事ばかりではなかったでしょうか？メーカーサイトにアクセスするたびに発生する名刺交換や各種登録、見づらい展示構成に疲れて目的を果たせないまま画面を閉じた方も少なくないと思います。

そんな前回から4年ぶりのリアル開催となる今回は「開かれる扉（ミライ）、世界を動かす技術の出会い」をキャッチコピーにメーカー各社は持続可能な社会を形成する為にDXを用いた自動化技術や環境性能が向上した製品の出展が期待されます。

我々もメーカー各社が打ち出す取り組みを確り理解しお客様が求めている扉を開け世界を変える技術の提案により社会貢献が出来ればと思います。 (金子 (智))

朝晩は寒くなり服装に迷う日が続き、あっという間に冬へ変わっていきそうです。

11月になると街の雰囲気もクリスマス商戦、年賀状の販売等年末の様相になってきております。

さて今年のJIMTOF2022は4年ぶりに国際展示場でのリアル開催されることとなり、JIMTOF2018を超える史上最大規模を見込まれるとのことのことです。

JIMTOFは1962年に大阪で第1回が開催され今回60周年を迎えますが、私個人と致しましては32周年となります。今年のテーマは「開かれる扉、世界を動かす技術の出会い」です。今回も各出展企業様がどのようなテーマにて出展されるか楽しみにしております。

日本工作機械販売協会調査広報委員会として、今回もJIMTOF2022について恒例の『座談会』を開催し委員の方々の率直な意見を基に広報誌に掲載させていただきます。年末に向け忙しい時期になりますが、皆様も体調管理にお気をつけてお過ごし下さい。 (君村)



お問い合わせ・ご意見をお寄せください。 ■ E-mail : jmta@nikkohan.or.jp

日工販NEWS November 2022

2022年11月発行

発行 行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝5-26-30 専売ビル3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 中島 和彦

編集 日工販調査広報委員会
委員長 金子 隆視 (丸紅テクノシステム株式会社)
委員 君村 義人 (伊藤忠マシンテクノス株式会社)
中村 龍二 (株式会社トミタ)
金子 智彦 (三菱商事テクノス株式会社)
長友林太郎 (株式会社牧野フライス製作所)
吉田 夢輝 (三井住友ファイナンス&リース株式会社)

制作・印刷 株式会社昌文社
〒108-0014 東京都港区芝5-26-30
電話 03-3452-4931 <http://www.sho-shiba.com>

正会員 (全80社)

東部地区 (35社)

(株) 旭 商 工 社
 アルビテクノロジー(株)
 伊藤忠マシントクノス(株)
 イワイ機械(株)
 (株) ウインテック
 大石機械(株)
 (株) カナデン
 (株) カネコ・コーポレーション
 (株) 兼松 K G K
 (株) 京二機
 (株) 共和工機
 (株) 群馬工機興
 (株) 小林機械
 (株) 佐藤商事(株)
 (株) 三機商會
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジヤパン
 誠和エンジニアリング(株)
 双日マシナリー(株)
 帝通エンジニアリング(株)
 (株) テヅカ
 (株) トミタ
 (株) 豊通マシナリー
 (株) N a l T O
 日鋼 Y P K 商事(株)
 丸紅テクノシステム(株)
 三井物産マシントック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤマモリ
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

中部地区 (23社)

石原商事(株)
 (株) 高井機販
 岡谷機械(株)
 力ト一機(株)
 釜屋機械商事(株)
 岐阜機商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 (株) サンコ一商事
 三立興産(株)
 下野機(株)
 (株) 大成誠
 (株) 大和商會
 (株) 大東商會
 (株) 日本精機商會

浜松貿易(株)
 (株) 不二
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 山下機械(株)
 (株) U - M A C H I N E
 ワシノ商事(株)

西部地区 (22社)

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 合田商事(株)
 五誠機械産業(株)
 (株) 桜井機
 (株) ジーネックス
 (株) ダイイチテクノス
 大幸産業(株)
 (株) 立花エレテック
 (株) タナカ善
 西川産業(株)
 日工機械(株)
 (株) ニッツマシナリー
 (株) 日本産商
 (株) マックマシンツール
 (株) マルカ
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山善
 (株) ユーエイ

賛助会員 (全76社)

製造業 (67社)

アイダエンジニアリング(株)
 (株) アマダマシナリー
 育良精機(株)
 エヌティーツール(株)
 (株) MSTコーポレーション
 (同) L N S ジャパン
 エンシユウ(株)
 オートエスジュー(株)
 (株) オートム製作所
 オークマ(株)
 (株) 岡本工作機械製作所
 (株) 神崎高級工機製作所
 (株) 北川鉄工所
 キタムラ機械(株)
 (株) キヤドマック
 キヤムタス(株)
 黒田精工(株)
 三愛エコシステム(株)
 サンドビック(株)
 三宝精機工業株式会社
 (株) C & G システムズ
 (株) ジェイテクト

(株) シギヤ精機製作所
 シチズンマシナリー(株)
 芝浦機械(株)
 シーメンズ(株)
 新日本工機(株)
 住友電気工業(株)
 (株) ソンデイツク
 大日金属工業(株)
 (株) 太陽工業
 高松機械工業(株)
 (株) T A K I S A W A
 (株) ツガミ
 津田駒工業(株)
 D M G 森精機(株)
 (株) 東京精機工作所
 (株) 東京精密
 東洋精機工業(株)
 (株) ナガセインテグレーション
 中村留精密工業(株)
 (株) 西田機械工作所
 (株) 日研製作所
 (株) 日進製作所
 ニデックオーケーケー(株)
 日本電産マシンツール(株)
 ハイデンハイン(株)
 (株) 初田製作所
 濱井産業(株)
 浜名エンジニアリング(株)
 B I G D A I S H O W A (株)
 ファナック(株)
 (株) F U J I
 ブラザー工業(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株) 牧野フライス製作所
 (株) 松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミットヨ
 三菱電機(株)
 三菱マテリアル(株)
 (株) M O L D I N O
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)
 吉川鐵工(株)

リース業 (9社)

共友リース(株)
 J A 三井リース(株)
 十六リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 三井住友トラスト・パナソニックファイナンス(株)
 三井住友ファイナンス&リース(株)
 三菱 H C キャピタル(株)
 三菱電機フィナンシャルソリューションズ(株)



日本工作機械販売協会

JAPAN MACHINE TOOL DISTRIBUTORS ASSOCIATION

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-30 専売ビル

TEL.03-3454-7951 FAX.03-3452-7879

<http://www.nikkohan.or.jp>